

Impacting the World

西南学院大学

西南学院中学校・高等学校

西南学院小学校

舞鶴幼稚園

早緑子供の園

2013(平成 25)年度 学校法人西南学院 事業報告書

一粒の麦から、次の100年に向かって



 学校法人 西南学院

西 南 学 院 の 使 命

学校法人西南学院は、「キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人材を育てることを使命とする。

Mission Statement of Seinan Gakuin Educational Foundation

Seinan Gakuin, an educational institution endeavoring to be true to Christ in the pursuit of truth in academic affairs and excellence in character development, strives to equip and nurture students to serve as creative and constructive leaders in local communities and in an expanding global society.

目 次

2013(平成 25)年度学校法人西南学院事業報告書について	1
--------------------------------	---

I. 学校法人西南学院の概要

1. 沿革	2
2. 組織図	4
3. 理事・監事・評議員	5

II. 事業の概要

1. 各学校・園概要報告

(1) 学院本部	6
(2) 大学	9
(3) 中学校・高等学校	17
(4) 小学校	20
(5) 舞鶴幼稚園	21
(6) 早緑子供の園	22

2. トピックス

(1) 各学校・園行事	24
(2) 認可・認定・届出	28
(3) 名誉顧問・名誉教授・名誉博士	29
(4) 学位授与	30

3. データ

(1) 学生・生徒・児童・園児数	31
(2) 教職員数	33
(3) 入学試験日程	34
(4) 入学志願者数及び合格・許可者数	36
(5) 卒業生数	38
(6) 大学卒業者就職状況	39

III. 財務の概要

1. 資金収支計算	40
2. 消費収支計算	41
3. 貸借対照表	42
4. 財務比率などの推移	43
5. 財務比率比較表	46
6. 学生生徒等納付金一覧表	47

2013(平成 25)年度学校法人西南学院事業報告書について

学校法人西南学院は、2004(平成 16)年以降、当該年度における事業並びに財務の概要を事業報告書としてとりまとめ、2006(平成 18)年度からはその報告書を広く一般にも公開している。2009 年度事業報告書からは、年度初めに策定する事業計画書と内容的な相対性を持たせ、学院の各学校・園における事業の概要がより分かり易い構成となっている。

2010 年 4 月に開校した西南学院小学校の新設によって、西南学院は保育所、幼稚園から大学、大学院までを一貫して備える西日本でも数少ない学校法人となった。各学校・園での教育は、創立時から現在に至るまで建学の精神「西南よ、キリストに忠実なれ」を基としており、2009(平成 21)年からは、更に「21 世紀の西南学院のテーマ“Impacting the World”」を定め、2016(平成 28)年に迎える創立 100 周年に向けた取り組みを学院の内外にて行っている。

本報告書は、Ⅰ．学校法人西南学院の概要、Ⅱ．事業の概要、Ⅲ．財務の概要の 3 部から成り、Ⅱ．事業の概要においては各学校・園の主要な事業、トピックス及びデータを掲載している。なお、本報告書は、2013 年度内のものを基本としており、以下の内容においては、それぞれ次の時点のものである。

沿革： 2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

組織図： 2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

理事・監事・評議員： 2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

名誉顧問・名誉教授・名誉博士： 2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

学位授与： 2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

学生・生徒・児童・園児数： 2013(平成 25)年 5 月 1 日現在

教職員数： 2013(平成 25)年 5 月 1 日現在

入学試験日程： 2014(平成 26)年度入試 (2013(平成 25)年度実施の入試)

入学志願者数及び合格・許可者数、卒業生数： 2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

大学卒業生就職状況： 2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

Ⅲ．財務の概要においては、2013(平成 25)年度の資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表に加え、帰属収入と帰属収支差額、消費収支計算書の財務比率、貸借対照表の財務比率、各種引当資産等に関する推移も掲載している。また、学生生徒等納付金一覧を巻末に付記している。

I. 学校法人西南学院の概要

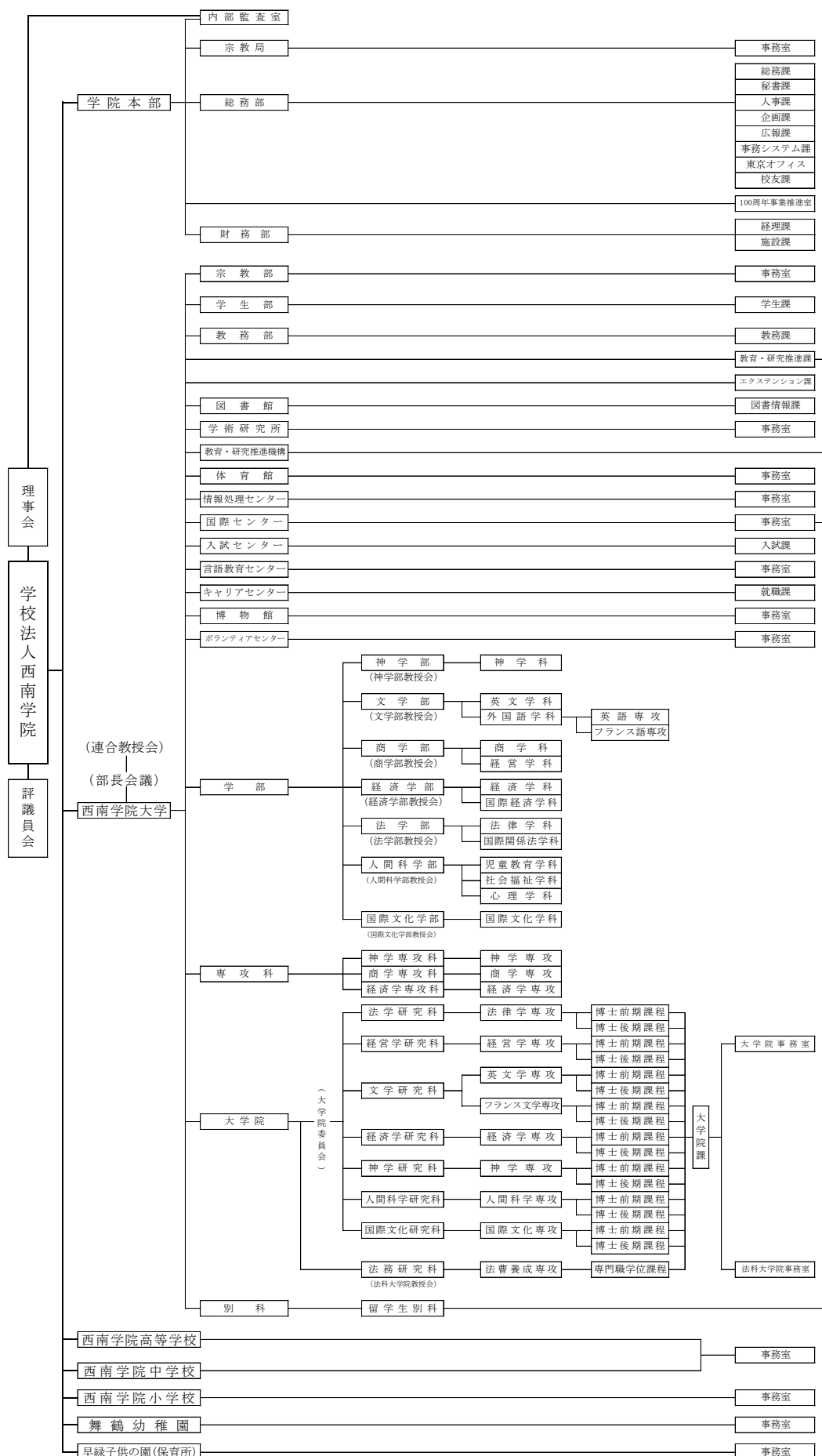
1. 沿革

西暦	元号	年	月	内 容
1916	大正	5年	2月	私立西南学院設立(福岡市大名町105番地)
			4月	西南学院開院式
			11月	私立西南学院を私立中学西南学院と改称
1918		7年	1月	早良郡(現福岡市)西新町に移転
1920		9年	7月	私立中学西南学院を中学西南学院と改称
1921		10年	2月	財団法人私立西南学院財団設立
			4月	西南学院高等学部(文科、商科)設置
			6月	中学西南学院を西南学院中学部と改称
1923		12年	4月	高等学部神学科増設
1939	昭和	14年	4月	西南学院商業学校設置
1944		19年	4月	西南学院高等学部を西南学院経済専門学校と改称、西南学院商業学校を西南学院工業学校に転換
1946		21年	4月	西南学院工業学校が西南学院商業学校となる、西南学院経済専門学校を西南学院専門学校と改称
1947		22年	4月	西南学院専門学校第二部(英文科、経済科)増設、新制西南学院中学校設置
1948		23年	4月	新制西南学院高等学校設置
1949		24年	4月	西南学院大学学芸学部(神学専攻、英文学専攻、商学専攻)設置
1950		25年	4月	西南学院大学短期大学部(児童教育科、第二部:英語科、商科)設置
			4月	舞鶴幼稚園(大正3年3月設置認可)および早緑子供の園(昭和24年6月開設)を西南学院に合併
1951		26年	2月	財団法人私立西南学院財団を学校法人西南学院へ組織変更
			4月	大学学芸学部を文商学部と改称
1954		29年	3月	西南学院専門学校廃止
			4月	大学文商学部を文学部(神学科、英文学科)と商学部(商学科)に分離、文学専攻科(神学専攻、英文学専攻)および商学専攻科(商学専攻)設置
1962		37年	3月	短期大学部第二部(英語科、商科)廃止
			4月	西南聖書学院設置、大学商学部経済学科および商学専攻科経済学専攻増設
1964		39年	3月	大学商学部経済学科および商学専攻科経済学専攻廃止
			4月	大学経済学部(経済学科)および経済学専攻科(経済学専攻)設置
1965		40年	4月	大学文学部外国語学科増設
1966		41年	3月	大学文学部(神学科)および文学専攻科(神学専攻)廃止
			4月	大学神学部(神学科)および神学専攻科(神学専攻)設置、商学部経営学科増設
1967		42年	4月	大学法学部法律学科設置
1969		44年	4月	大学文学部外国語学科を英語専攻とフランス語専攻に分離、文学専攻科に英語専攻およびフランス語専攻増設
1970		45年	4月	大学商学専攻科経営学専攻増設
1971		46年	4月	大学院法学研究科法律学専攻修士課程設置
			6月	大学国際交流制度発足
1972		47年	3月	大学商学専攻科経営学専攻廃止
			4月	大学院経営学研究科経営学専攻修士課程設置
1973		48年	4月	大学留学生別科設置
1974		49年	4月	大学院法学研究科法律学専攻博士課程および経営学研究科経営学専攻博士課程並びに大学文学部児童教育学科増設
1975		50年	3月	短期大学部(児童教育科)および西南聖書学院廃止
1976		51年	4月	大学文学部国際文化学科増設、大学院文学研究科英文学専攻修士課程およびフランス文学専攻修士課程設置
1978		53年	3月	大学文学専攻科(英文学専攻、英語専攻、フランス語専攻)廃止
1980		55年	4月	大学文学専攻科(国際文化専攻)設置、大学院文学研究科英文学専攻博士課程およびフランス文学専攻博士課程増設
1981		56年	4月	大学院経済学研究科経済学専攻修士課程設置

西暦	元号	年	月	内 容
1985	昭和	60年	4月	博物館学芸員課程設置
1988		63年	4月	大学経済学部経済学科を経済学専攻と国際経済学専攻に分離、大学神学部神学科に神学コースおよびキリスト教人文学コース設置
1992	平成	4年	4月	大学法学部国際関係法学科増設
1994		6年	4月	西南学院高等学校男女共学へ移行
1996		8年	4月	西南学院中学校男女共学へ移行、西南学院中学校・高等学校一貫教育実施
1997		9年	4月	大学院文学研究科国際文化専攻修士課程増設
2000		12年	4月	大学院文学研究科国際文化専攻博士課程増設
2001		13年	4月	大学文学部社会福祉学科増設
2004		16年	4月	大学院法務研究科法曹養成専攻(法科大学院)専門職学位課程設置
2005		17年	3月	大学文学部児童教育学科、社会福祉学科および経済学部経済学科の2専攻(経済学専攻、国際経済学専攻)廃止
			4月	大学人間科学部児童教育学科、社会福祉学科設置および経済学部国際経済学学科増設
			4月	大学院神学研究科神学専攻修士課程および人間科学研究科人間科学専攻修士課程設置
2006		18年	3月	大学文学部国際文化学科、文学専攻科(国際文化専攻)および大学院文学研究科国際文化専攻博士課程廃止
			4月	大学国際文化学部国際文化学科および大学院国際文化研究科国際文化専攻博士課程設置
2007		19年	4月	大学院神学研究科神学専攻博士課程および人間科学研究科人間科学専攻博士課程増設
2009		21年	4月	大学院経済学研究科経済学専攻博士課程増設
2010		22年	4月	西南学院小学校開設
2012		24年	4月	大学人間科学部心理学科増設

2. 組織図

2014(平成26)年3月31日現在



3. 理事・監事・評議員

[2014(平成26)年3月31日現在]

◎理事長 ○常任理事

職 名	系 列	氏 名
理 事 (定数22名 現員20名)	院 長	○ G.W. ハークレー
	学 長	[G.W.ハークレー]
	高 等 学 校 長	○ 伊 原 幹 治
	中 学 校 長	[伊 原 幹 治]
	小 学 校 長	○ 和 佐 野 健 吾
	事 務 局 長	○ 高 良 研 一
	副 学 長	武 井 俊 詳 小 山 雅 亀
	大学部長会議構成員	○ 後 藤 新 治 古 賀 衛 村 岡 伸 秋
	牧 師 系 列	金 子 敬 踊 一 郎 奥 田 知 志 平 良 憲 誠
	評 議 員 系 列	K. J. シャフナー
	卒 業 者 系 列	秀 島 正 博 中 村 晴 光
	学識経験者系列	北 村 慎 二 小 林 洋 一 酒 見 啓 祐 ◎ 吉 田 茂 生
監事(定数2名 現員2名)		中 村 一 也 吉 田 □ 俊
評 議 員 (定数50名 現員47名)	院 長	G.W. ハークレー
	学 長	[G.W.ハークレー]
	高 等 学 校 長	伊 原 幹 治
	中 学 校 長	[伊 原 幹 治]
	小 学 校 長	和 佐 野 健 吾
	宗 教 局 長	K. J. シャフナー
	事 務 局 長	高 良 研 一
	副 学 長	武 井 俊 詳 小 山 雅 亀
	大学部長会議構成員	福 浦 幾 巳 後 藤 新 治 古 賀 衛 村 岡 伸 秋 須 藤 伊 知 郎
	高等学校教頭	中 根 広 秋
	中学校教頭	山 内 芳 広
	小学校教頭	宮 崎 隆 一
	高等学校宗教主任	坂 東 資 朗
	中学校宗教主任	宮 崎 宗 親
	幼稚園長	井 上 哲 雄
	保育所園長	[和 佐 野 健 吾]
	事務部長会議構成員	坂 井 啓 高 木 幸 二
	牧 師 系 列	金 子 敬 踊 一 郎 奥 田 知 志 白 石 久 幸 平 良 憲 誠 友 納 靖 史
	卒 業 者 系 列	崔 白 雲 秀 島 正 博 岩 崎 文 正 川 内 光 松 原 照 明 中 村 晴 光 田 川 大 介 梅 木 光 男
	学識経験者系列	今 井 尚 生 北 村 慎 二 小 早 川 晶 小 林 洋 一 相 模 裕 一 坂 本 雅 子 酒 見 啓 祐 綿 貫 真 理 吉 田 扶 久 子 吉 田 茂 生
	教 職 員 系 列	岩 間 徹 大 杉 晋 介 土 田 珠 紀

注:各系列内はアルファベット順。

注:〔 〕は兼務を示す。

Ⅱ. 事業の概要

1. 各学校・園概要報告

(1) 学院本部

A. 本学院の保育・教育の特色の強化

① 建学の精神に基づく全人格的教育・保育の提供

i. 学院聖句の学院内における浸透

2013 年度学院聖句 — 覚える Remember — ヘブライ人への手紙 12 章 1 節

ii. 建学の精神の教職員への浸透

- ・教職員クリスマス(2013 年 12 月 11 日) 献金額 293,571 円
- ・西南学院朝の祈り会(原則毎月第 1 水曜日)
- ・アルファ・コース(キリスト教入門講座)

iii. キリスト教精神の地域への浸透

a. 学院コンサートの開催

- ・新垣勉 「おしゃべりコンサート」(2013 年 5 月 17 日)
- ・青島広志 「青島広志先生のおしゃべりコンサート～日本の歌は私たちと共に～」(2013 年 7 月 5 日)
- ・ディヴィッド・スタッフ & 諸岡亮子 「オルガンとトランペットの響き」(2013 年 9 月 28 日)
- ・安積道也、アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ「オルガンと古楽器の交唱(アンティフォン)」(2014 年 1 月 13 日)

b. 学院クリスマス行事

- ・西南学院コミュニティークリスマス(2013 年 12 月 20 日) 献金額 52,688 円

② 建学の精神に基づく一貫教育による国際的な能力を育成するための教育の推進

各学校・園では、チャペル等の時間を設けて日常的にキリスト教主義に基づく人格教育を行うと共に、各年齢段階に応じた語学教育、研修・留学の機会等を設けて、語学力及び国際的に活動できる能力の育成に努めた。

B. 教育・研究の強化のための資金の充実

大学では、大学給付奨学金 4,284 万円(前年度比 504 万円増額)、緊急支援奨学金 648 万円を支給し、経済的な事情で学費の支弁が困難な学生への奨学金事業を実施した。また、本学初のメリットベースの奨学金として、2011 年度に創設された「成績優秀者奨学金制度」を維持・継続し、学業をさらに奨励することを目的として 1,285 万円を支給した。さらに、本学教職員からの寄付金を原資とした「西南学院大学教職員による奨学金」は、8 名に対して 288 万円(前年度比 144 万円増額)を支給した。中学校・高等学校では奨学基金(累計額 3 億円)の運用収入を財源とした奨学金の拡充を検討している。

管理経費は前年度比 2%カットの導入を図る一方、教育研究経費については内容を精査して増額に努め、人件費の抑制策も鋭意検討している。

C. 学院創立 100 周年事業の実施

学院創立 100 周年に向けて、4 つの基本コンセプトに基づいた様々な事業を展開している。

① 記念事業関係

- ・100 周年記念募金事業開始(学内向け 2013 年 7 月～、学外向け 2014 年 1 月～)

② 行事関係

- ・西南学院創立 100 周年記念・東京オフィス開設記念 キム・フック氏講演会
(2013 年 4 月 13 日/名古屋、4 月 15 日/東京、4 月 18 日/福岡)
- ・西南学院どんたく隊パレード参加(2013 年 5 月 4 日)
- ・西南学院舞鶴幼稚園創立 100 周年記念 尾木直樹氏講演会
「幼児期に育てておきたい力～今からでも遅くない～」(2013 年 5 月 18 日)
- ・西南学院フェア(2013 年 6 月～8 月)
- ・西南学院プレゼンツお話アカデミー(2013 年 8 月～2014 年 3 月)
- ・西南学院大学学術文化会 OB・OG 連合会による講演会
「米倉斉加年氏トークショー ～西南と私～」(2013 年 8 月 31 日)
- ・西南リコーダー・フェスティバル(2013 年 10 月 26 日)
- ・西南学院フェスタ in プラリバ(2013 年 10 月、12 月)
- ・西南学院オラトリオ・アカデミー2013(2013 年 11 月 1 日、3 日)
- ・西南学院史講演会(2013 年 11 月 7 日)
- ・舞鶴幼稚園創立 100 周年記念式典・祝賀パーティー(2013 年 11 月 9 日)
- ・風 音 2013」コンサート(2013 年 11 月 24 日)
- ・西南学院創立 100 周年記念学院史企画展「日本に蒔かれた一粒の麦」
(2013 年 2 月 28 日～2014 年 5 月 16 日)
- ・『C. K. ドージャーの生涯』(改訂版)の出版(2014 年 3 月)

③ 広報関係

- ・100 周年新聞広告(2016 年まで創立記念日に毎年掲載)
- ・地下鉄天神駅電照看板広告(2013 年 4 月～)
- ・東京駅電照看板広告(2013 年 4 月～)
- ・大学卒業生向け広報誌(Re:SPIRIT)発行(毎年 3 月)
- ・「西南特選煎茶」の発売(2013 年 6 月～)
- ・「西南学院オリジナル焼酎」の発売(2014 年 1 月～)
- ・西南学院創立 100 周年記念募金事業ホームページ開設(2013 年 12 月)

④ その他

- ・西南学院創立 100 周年学術行事委員会の設置(2013 年 5 月)
- ・西南学院創立 100 周年学生等行事委員会の設置(2013 年 6 月)
- ・西南学院・同窓会連合会協議会実行委員会の設置(2013 年 6 月)
- ・校友課の設置(2013 年 7 月)
- ・西南学院創立 100 周年記念式典・講演会委員会の設置(2013 年 8 月)
- ・学院史資料センター(仮称)検討委員会の設置(2013 年 12 月)
- ・100 周年記念館(仮称)建設にかかる答申(2013 年 12 月)

D. 防災計画の推進

各学校において消防計画に基づき避難訓練を実施し、学生・生徒・児童・園児、教職員の防災に対する意識向上を図った。災害対応に備えた防災用品・備蓄物品の整備については各学校で計画・検討を進めた。特に大学においてはトランシーバーや非常用トイレ等の備蓄物品を購入した。

E. エコキャンパスの推進

常任理事会において各学校のエネルギー使用状況を報告の上、総務課、施設課、関係事務部署において温暖化対策・環境問題への取り組みを検討・実施した。

なお、2014年3月に竣工した新本館ではLED照明やエコボイドなどの設備を取り入れ、温暖化対策を図った。

F. 健全な財政基盤の確立

2013年度から学院創立100周年記念募金を開始し、5,224万円を受け入れた。また、私立大学等経常費補助金の増額を目指し、経常費補助金コンシェルジュを設置し、申請事項の検討、申請内容の検証を行っている。

2013年度の予算執行に当たっては、一定の基準を設定し、特に新本館建築を含めた大規模工事等の発注において見積り内容を精査して厳正に対応するなど経費削減に努めた。物品購入については、株式会社キャンパスサポート西南を活用してさらなる支出の削減に努めている。また、2号基本金として、大学新図書館5億円、大学体育館2億円、大学西南会館5,000万円及び中学校・高等学校空調設備4,500万円を積み立てた。

G. 新本館の建設

2012年3月に策定された「西南学院大学キャンパスグランドデザイン」において示された整備手順に沿って、大学東キャンパス内に新本館を建設した。(2014年2月竣工)

新本館は免震構造であり、非常用発電設備や備蓄倉庫も設け、災害対応時の機能強化を図った。また、トイレ洗浄水として福岡市の再生水を利用したり、LED照明、エコボイド(4層吹き抜け空間)を設けるなど、環境負荷の低減を図った。

H. 東日本大震災被災地支援活動

東日本大震災の復興支援として、義援金活動を継続実施した。2013年度の義援金は、1,402,442円、2011年度からの義援金総額は、14,777,338円となった。なお、義援金活動への協力及び報告については、西南学院及び西南学院大学ホームページに掲載し、義援金は、日本バプテスト連盟及び日本赤十字社を通じて送金した。

(2) 大学

A. 教育と研究の充実と強化のために

① 人格教育の強化

i. 大学宗教部活動の充実

- a. チャペル〔前期：4月～7月、後期：9月～1月〕
 - ・毎週火曜日～木曜日の3日間。10時35分～11時(25分間)
 - ・チャペルは正規の教育プログラムの一環として全学生を対象に実施した。
- b. キリスト教フォーカス・ウィーク
 - ・春季(2013年5月28日～5月30日)
2013年5月28日、29日 金子千嘉世(宮崎丸山町キリスト教会牧師)
2013年5月30日 ヒュウステベック節子(看護師、障がい者作業所指導員)
 - ・秋季(2013年11月26日～11月28日)
2013年11月26日 本田路津子(ゴスペルシンガー)
2013年11月27日・28日 荒井 献(東京大学名誉教授、恵泉女学園大学元学長)
- c. その他
 - ・オルガンコンサート：ヘルムート・ドイチュ(2013年5月22日)
 - ・クリスマスツリー・ディスプレイ点灯式(2013年11月29日)
 - ・公開演奏会：本田路津子クリスマスコンサート(2013年11月29日)
 - ・キャンドル・サービス(2013年12月20日)
 - ・第43回ファカルティ・リトリート(2014年2月26日)
 - ・宗教部リトリート・宗教部関係者懇談会(2014年3月5日)
 - ・卒業礼拝(2014年3月20日)

ii. ボランティアセンターによる働きの推進

- ・東日本大震災ボランティア(2013年8月～2014年3月 岩手県・宮城県)
- ・海外ボランティア・ワークキャンプ(2014年2月28日～3月10日)
- ・ストプロ★寄附本プロジェクト 寄附本回収冊数5,823冊(累計9,392冊) 寄附金額130,706円(累計256,332円)
- ・久山療育園開園祭ボランティア
- ・ボランティア講座
- ・学生ボランティアの登録
- ・福岡県やNGO団体等他機関との連携

② 教育内容・方法の充実

i. 国際交流

a. 協定校

2013年度は、アメリカのサムフォード大学、チェコのカレル大学、マサリク大学、ハンガリーのエトヴェシュ・ロラーンド大学4つの協定校を追加し、14か国41大学となった。

b. 海外派遣留学生

1学期または1学年間、協定校に留学した海外派遣留学生は44名であった。夏季・春季休暇中の短期語学研修は、7か国10校で実施して、263名が参加し

た。現在、短期語学研修で学ぶことができる言語は、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語に加えてイタリア語の 6 言語である。

2013 年度からグローバル人材育成のために、2 つの海外研修を開始した。一つは、アメリカの小学校で教師のインターンシップを実施する「ティーチャーアシスタント研修」である。もう一つは、シンガポールで旅行会社、航空会社、ホテルでの実地研修と講義を通じて、ツーリズム産業について学ぶ「ツーリズム産業海外研修」である。2012 年度から実施したグローバル人材育成に特化した海外研修を含めて、2013 年度は 34 名が、これらの海外研修に参加した。

c. 受入れ留学生

留学生別科では、主に協定校からの交換留学生を受け入れて、日本語の他に、日本の文化、社会、経済等に関する 23 科目を英語により提供した。2013 年度は、60 名の留学生(私費外国人留学生を含む)を受け入れた。また、海外の大学生を対象とした 1 か月間の日本語集中講座である夏期日本語研修には、アメリカ、カナダ、フランス、中国、韓国の 5 か国 33 名が参加した(募集定員は 40 名)。

d. 交換教授・研究員

2013 年度は、イギリス、中国から交換研究員、客員研究員 3 名を受け入れた。

ii. 語学教育の強化

2012 年 4 月に新棟へ移転した言語教育センターでは、充実した機器と豊富なメディア等を活用して、以下のとおり、学生の語学力強化に取り組んだ。

- ・外国語会話の適応能力の習得や TOEIC スコアのレベルアップを目的として、外国語教員や大学院生の指導のもと、前期・後期合わせて 25 コマの無料の語学実習講座を開いた。英語、仏語、中国語に加えて、要望の多かった韓国語会話を新規に開講した。
- ・外部講師による有料での TOEFL 対策講座及び超感覚 TOEIC 講座を 1 コマずつ設けて、学生の語学力向上を支援した。特に超感覚 TOEIC 講座には、130 名近い学生が参加し、英語力アップに取り組んだ。
- ・TOEIC 公開、TOEIC-IP 受験料の補助を行い、学生が語学力判定試験を受けやすい環境を確保した。

iii. 情報処理教育の強化

高い情報対応力を備えた人材養成実現を目的とした、情報処理教育科目の強化・充実のため、次の取り組みを実施した。

- ・一部開講科目の履修年次を見直し、学生がより受講しやすい形とした。
- ・e-Learning コンテンツの更新を行い、最新の情報倫理や情報技術動向を反映した教材を用いた教育が実施できる環境を提供した。

③ 入試制度の充実

受験生や社会のニーズに基づき検討を進めた結果、2015 年度入試から、一般入試 F 日程における東京試験場の設置、人間科学部心理学科において独自指定校推薦入試の実施、一般選抜及び公募制推薦入試においてインターネットによる出願システムの導入を決定した。

④ 学生サービスの充実

2013 年 4 月にキャリアセンターを開設し、これまで学生部の管轄であった就職課

を同センターの管轄として独立した組織に改編した。新たに1、2年次生も対象とした「低学年向け進路・就職説明会」や、全学年を対象とした「キャリア講座」、大学教職員と企業の採用担当者等が集う「就職情報交換会」を開催するなど、学生の進路選択に係る支援体制を強化した。

⑤ 大学間連携の強化

i. 継続中の大学間連携

- a. 九州大学、福岡女子大学及び福岡工業大学と本学との包括連携を核として、「国公立大学コンソーシアム・福岡」の大学間連携事業を推進した。なお、「国公立大学コンソーシアム・福岡」は、2014年3月末日をもってその連携関係を発展的に解消し、2014年度以降その活動を「大学ネットワークふくおか」へ移していく計画である。
- b. 九州大学、福岡女子大学とともに発足した、日本における欧州連合(EU)の高度な学術研究拠点としての EU Institute in Japan(EUIJ)九州において、学部学生や大学院生を対象にEUをテーマにした科目を履修できる「ディプロマプログラム」を実施した。本学からは延べ281名がこのプログラムに参加し、45名がディプロマプログラム終了申請し、すべて修了認定を受けた(残りの者は継続中)。本学でシンポジウムおよび国際会議を開催したり、留学生への奨学金提供、研究者への助成なども行った。また、2011年度からは単位互換制度を設け、他大学からの受講者の受け入れも行っている。
- c. アジア及びカナダの大学との連携を強化するために、2つのコンソーシアムに加盟した。一つは、アジアのキリスト教大学で構成されるアジア・キリスト教大学協会である。加盟校数は、日本、中国、台湾、韓国、インドネシア、フィリピン、タイの7か国54大学である。もう一つは、日本の12大学とカナダの10大学から構成される日加戦略的留学生交流促進プログラムである。
- d. 本学大学院法学研究科とエクスマルセイユ大学法学研究科との間で、両大学の修士課程・博士課程の学生に日本法、ヨーロッパ法を修得するための教育コースを提供する連携事業を推進し、2014年1月上旬よりフランスから交換学生1名を受け入れている。

⑥ 新学部・学科の設置に向けた検討

社会と受験生の需要を充足すべく2012年7月1日に学長の諮問機関として「グローバル人材育成を目指す新学部・学科構想委員会(委員長 武井副学長)」が組織され、2013年5月に構想委員会から設置構想案(答申書)が提出された。この答申による方向性の承認が学内所定会議で得られた。この決定をうけて同年7月以降、学長の諮問機関として「新設する学部・学科等の設置準備委員会(委員長 宮原 哲文学部教授)」が組織され、設置詳細案の策定が進められた。

⑦ 教育・研究支援

i. 大学奨学基金の充実

大学第11次財政計画に基づき、大学奨学基金及び教育研究振興基金として、それぞれ5,000万円を積立てた。これまでの累計額は大学奨学基金11億3,000万円、教育研究振興基金6億2,000万円である。2011年度から成績優秀者奨学金制度を導入し、2013年度は1,285万円を支給するとともに、緊急支援のための奨学金についても648万円を支給した。

ii. 教育・研究の特色強化のための資金の充実

「特色ある学部教育実施経費」の増額により、学部・学科・専攻で、独自研修、入学前学習講座、自己学習システムの充実、学部 TA の活用、ICT 教育機器の充実などの新たな取組みがなされた。また、従来から実施している、講演会補助、研修参加補助、各種検定補助、ゼミ論集製本、ゲストスピーカー招聘、交流会補助なども、学部・学科・専攻の独自性を生かして活発に行われた。

大学院では「大学院給付奨学金」、大学院生の個人研究用図書費の一部補助及び公開講演会での講演者への謝金、法科大学院では実務家教員(弁護士)のティーチング・アシスタント及びチューターの人件費に充てた。

iii. 教育・研究推進機構の活動

教育・研究推進機構では、学内 GP 制度の後継制度である教育インキュベートプログラムの募集を開始し、2013 年度後期開始分を 5 件、2014 年度前期開始分を 2 件採択した。共同研究育成制度と特別研究制度(学術研究所所管)を統合した研究インキュベートプログラムの募集を行い、2013 年度は 6 件採択した。研究助成制度は、現在、選考中である。また、法令や政策の動向を確認し、理解を深めるために「大学改革フォーラム」を 2 回開催した。

その他、学生に体系的かつ順次的な履修を促すため、2013 年度から履修モデルを整備し、2014 年度の「学生便覧」に掲載した。

iv. 学術研究所の活動

所員及び特別所員全員に支給する個人研究費による研究が実施され、その研究成果は主に論集(16 刊発刊)及び学会等での発表(98 件)等により公開された。

また、在外研究(9 名)及び国内研究(10 名)を実施すると共に、出版助成制度により 5 冊の学術書籍を出版した。学術研究所主催学術講演会は 3 件を開催した。

なお、外部研究資金の獲得としては、科学研究費助成事業については新規に研究代表者分 10 件を獲得し、継続分を含めると 2013 年度は研究代表者分 27 件及び研究分担者分 33 件の科研費による研究が実施された。また、科研費「研究成果公開促進費」により学術図書 1 冊が出版された。

v. 西南学院大学教職員による奨学金制度の充実

本学教職員有志及び本奨学金制度の趣旨に賛同される方の寄付金を原資とし、経済的理由により学資の支弁が困難な学部学生を支援するための奨学金制度を 2011 年度に創設した。創設 3 年目となる 2013 年度の寄付総額は 2,929,000 円、給付総額は 2,880,000 円(8 名)であった。

B. 社会貢献の充実と強化のために

① 学外連携強化

福岡市の教育改革プログラム「21 世紀の福岡市らしい教育の推進」の取り組みのひとつとして、2004 年度にスタートした「学生サポーター制度」について、本学は初年度から福岡市と協定を結び、市立学校や幼稚園の授業の補助、課外活動の支援等のために学生を派遣している。

② 生涯学習の充実

i. 公開講座の開講(2 講座)

ii. リカレント講座の開講(2 講座)

③ 博物館の充実

i. 春季及び秋季企画展

春季：九州キリスト教シリーズⅣ「平戸松浦家の名宝と禁教政策－投影された大航海時代とその果てに」2013年6月8日～8月3日

秋季：「日本信仰の源流とキリスト教－受容と展開、そして教育」2013年11月1日～12月21日

ii. 企画展

・西南学院大学博物館地域連携事業「日本キリスト教史の展開」

(於松浦史料博物館)

「蒙古襲来絵詞と元寇防塁」

「古写真にみる西南学院Ⅲ」

「西南学院大学博物館実習生企画 海の玉手箱展」

・産官学連携事業 西南学院大学博物館サテライト展示「天草四郎の姿」

(於天草市立天草キリシタン館)

iii. せいなんこどもワークショップ(小学生対象)

iv. その他

特別展図録、博物館ニュース、年報、研究紀要、こどもリーフレット等を発行

C. 教育と研究の環境整備のために

① 大学キャンパスグランドデザインの推進

2012年3月に策定した大学キャンパスグランドデザインは、大学キャンパス整備の基本方針に関して、キャンパスの景観、学生・教職員の動線、省エネや防災対策、地域貢献などの多方面から検討し、施設の建替えや配置、外構等を総合的に計画したマスタープランである。

その第一段階として、2014年3月に中央キャンパスにあった本館機能を東キャンパスに移転させた。次年度には、旧本館跡地に建設する新図書館の設計を完了する予定である。

i. バリアフリー化の推進

2012年度に、老朽化した3号館を解体した後、2号館と4号館を繋ぐ渡廊下を設置した。2013年度は車椅子を利用する学生の利便性を考慮し、2号館及び4号館の両玄関を自動ドアに改修した。

ii. 耐震化の推進

大学教員の研究室棟である学術研究所の中央棟は、耐震診断の結果、巨大地震による建物倒壊の危険度が高かった。そのため耐震補強工事を行うと共に、傷んでいた外壁の補修工事や事務室のリニューアルなども併せて実施した。

iii. エコキャンパスの推進

大学環境マネジメント委員会の各委員会において、省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理などをはじめとする活動を進め、大学内の環境負荷の低減に努めた。また、省エネに関する啓発活動も検討・実施した。特に2013年度においても、国と電力会社から示された使用電力削減要請を受け、2012年度に引き続き夏季休暇期間中の勤務時間変更や節電のための巡回等の省エネ対策強化に努めた。

また、受動喫煙防止対策委員会ではキャンパス内完全分煙化という基本方針のもと喫煙スペースの整備や教育・啓発活動に取り組んだ。特に従来から課題であった2号館1階ピロティ喫煙コーナーの取り扱いについて検討し分煙化の徹底を図った。

iv. 将来の施設建設資金の確保

大学第11次財政計画に基づき、体育館2億円及び西南会館5,000万円を積み立てた。また、新図書館に5億円を積み立てた。

② 情報処理環境の整備

大学内の各教室や研究室等で無線LANを利用できるよう、学内各所に無線LANを増設した。マルチメディア教室の教育機器の新デバイス対応について検討し、11室の機器更新を実施した。

③ 語学教育環境の整備

新棟に移転して2年目をむかえた言語教育センターでは、以下のとおり、充実したCALL・LL・AV機器や設備、豊富な教材等の利用が活発であった。

・ラウンジ(1階～3階)

BBC放送やCNN放送を聴きながら休憩することができる場を設けることで、語学教育の場を強く印象づけた。

・メディア学習室

学生が自由に利用できる自習室として設置し、語学系の資格取得に関する書籍や雑誌・新聞を揃えた書籍コーナーや、外国映画や海外ドラマのDVDやCDを揃えたDVDコーナー、発声練習ブースやグループ学習室を設けて、外国語能力の習得と語学能力の向上を支援した。2012度の利用者数は延べ24,389名であったのに対して、2013年度は33,358名と飛躍的に増加し、書籍やDVD等のメディアの利用件数も大幅に伸びた。

・AVスタジオ教室

防音対策を施した本格的な映像スタジオと音声教材の作成が可能なブースを併設した教室を設けた。2013年度はAVスタジオ教室の有効な利用方法を教員にPRすることで、授業や課外のイベントでのプレゼンテーションの場として広く活用された。また、録音スタジオは学院オリジナル教材の作成などにも利用され、同センター所属の外国語教員と学生アシスタントにより、本スタジオにおいて収録されたオリジナル音声教材を、言語教育センターHPにて配信している。

・CALL教室

ネットワークにつながったPCをはじめ、映像や音声の各種メディアに対応するシステムを備えた語学教育に特化した教室の利用を希望する教員が増えた。教室の稼働率は、前期・後期とも90%を超えた。

④ 学生証及び教職員名札のICカード化

2012年4月から学生証及び教職員名札をICカード化し、大学生協での購買、証明書自動発行機利用時、また、本館及び図書館等の入退館管理などに利用している。新たな利用用途として、学生証を利用した就学支援のための出席調査システムについて検討し、第12次財政計画に事業計画を提出し、承認された。

D. 経営の充実の強化

管理・運営の整備に関して、次のとおり自己点検・評価制度の充実を図った。次期

自己点検・評価を展望して大学内に大学(大学院)設置基準及び認証評価基準を踏まえた内部質保証システムの考え方を定着させ、自律的に展開する仕組みの整備に継続的に取組んだ。具体的には、まず、PDCA サイクルの柱である「P(目標)」の設定について、学部・研究科・部局・センター等毎に目標設定シートを作成した(全学点検評価委員会：2013年7月10日)。次に、「西南学院大学自己点検・評価実施要領」(以下「実施要領」という)を作成した(全学点検評価委員会：2013年11月6日)。目標設定シートおよび実施要領ができあがったことで、自己点検評価・活動の骨組みは完成した。

E. 財政の充実と強化

① 第12次財政計画の策定

さらなる教育・研究の質的向上、学生生活環境の整備及び時代の要請に沿った施設・設備の拡充を図ると共に、財政基盤を確立して健全財政を維持するために、第12次財政計画を策定した。財政計画のテーマは、「さらなる国際化の推進」とし、その期間は、2014年から2017年までの4年間である。

② 学費改定

第12次財政計画(2014年度～2017年度)にあたり、下表のとおり学費を改定した。さらなる教育・学修環境の充実に向けては、経費削減への尽力だけでは不十分な状況であるとともに、消費増税による経費増加も踏まえ、教育充実費の新設及び授業料の増額を決定した。また、施設費においても、耐震等の学生の安全確保を目的に、学修環境の充実にも対応した中長期の施設設備整備計画であるキャンパスグランドデザイン(新図書館の建設等)を踏まえ増額する。なお、入学時の負担軽減等を考慮し、入学金は減額するとともに2013年度以前に入学した在学生については、授業のみの改定に留めた。

<2014年度以降に入学する新入生>

(単位：円)

学費項目	改定前	改定後
入学金	270,000	200,000
授業料	720,000	(2014年度) 740,000
		(2015年度以降) 750,000
施設費	130,000	170,000
教育充実費	—	40,000

<2013年度以前に入学した在学生>

(単位：円)

学費項目	改定前	改定後
授業料	720,000	(2014年度) 740,000
		(2015年度以降) 750,000
施設費	130,000	130,000
教育充実費	—	—

F. 東日本大震災被災地支援活動

被災地でのボランティア活動は、東北学院大学が中心となって全国 88 大学で取り組んだ大学間連携災害ボランティアネットワークへの参加及び日本バプテスト連盟の協力を得て本学独自の活動を実施するとともに、被災地に参加した学生達を中心となって、福岡での支援活動が続けるために学生団体「いと」が結成された。

主な活動は、以下のとおり。

- ① 東日本大震災ボランティア現地派遣及び報告会
 - i. 岩手県遠野市(日本バプテスト連盟)
4 期にわたり学生を派遣(学生 43 名、引率教職員 8 名)
 - ii. 宮城県仙台市(日本バプテスト連盟)
1 期にわたり学生を派遣(学生 11 名、引率教職員 2 名)
 - iii. 宮城県気仙沼市等(東北学院大学・大学間連携災害ボランティアネットワーク)
9 期にわたり学生を派遣(学生 40 名)
 - iv. 学部ゼミ生等
神学部(学生 5 名、引率教員 1 名)、人間科学部(学生 13 名、引率教員 2 名)
 - v. 震災ボランティア報告会(2014 年 1 月 16 日)
- ② 宮城県・岩手県の被災地仮設住宅等へクリスマスカード送付
- ③ 弁当容器回収
大学生協及び西南クロスプラザのリリパック容器の回収による義援金活動
義援金額 96,020 円(2011 年度からの累計額 305,190 円)
- ④ 東日本大震災復興支援チャリティコンサート(2013 年 6 月 29 日) 募金額 474,036 円
- ⑤ 被災地ボランティア活動に参加した学生を中心に結成された学生団体「いと」による主な活動
 - i. 街頭募金(天神地区にて 2013 年 5 月 11 日、2014 年 3 月 1 日)募金額 166,336 円
 - ii. 大学祭において被災地の物品販売 募金額 104,156 円
 - iii. 福岡市主催の被災地支援イベントに参加 募金額 29,137 円
 - iv. 学内パネル展、写真展、はるかのひまわりプロジェクト、手芸用品送付等

(3) 中学校・高等学校

A. 中学校・高等学校の動きについて

経済指標に好転傾向が見られるという調査結果があるものの、少子化と個人所得の伸び悩みなどを背景として、公立志向が一層強まる中、私立学校を取り巻く環境は依然として厳しいままである。加えて、周辺私学では、校舎の改装や男女共学化、大学との系列化などが進められており、これら改革の先発校であった本校の優位性をどう保ち、「教育の西南」をアピールしていくかが課題となっている。幸いにも本校は志願者に恵まれ、2014年度も必要な生徒数を確保することができた。

また、2014年度大学入学試験の結果は、国公立大学においては、九州大学への合格者数が若干減少したものの163名の合格者を出し、2013年度の158名と比べほぼ例年並みの実績を残した。早慶をはじめとする難関私立大学においては、2013年度を大幅に超える合格実績となった。主な大学への合格実績は以下の通りである。

主な大学合格実績（2014年4月15日現在）

京都大学	4名	大阪大学	3名	一橋大学	2名	名古屋大学	1名
北海道大学	1名	横浜国立大学	3名	神戸大学	4名	広島大学	4名
九州大学	43名	九州工業大学	18名	福岡教育大学	8名	熊本大学	8名
西南学院大学	182名	早稲田大学	34名	慶應義塾大学	25名	上智大学	10名
国際基督教大学	2名	青山学院大学	11名	同志社大学	52名	立命館大学	63名

B. 2013年度の主な事業

① 学校評価の検討

自己評価・外部評価について、継続的に研究を行っている。なお、具体的な進展までは至っていない。

② キリスト教教育プログラムの推進・充実

本校の建学の精神の具現化、教育目標のキリスト教教育の側面からの取り組みとして、下記の主要行事をはじめとするプログラムを推進し、その充実に努めた。

1)チャペル 2)ミッションウィーク 3)ボランティア活動 4)平和教育、人権・「同和」教育

③ 奨学事業の検討

既に積み立てを終えている奨学基金3億円の運用益を財源とした新入生対象の奨学金制度を設け、2014年度新入生から適用することを決定した。また、低金利の中において、今後の安定的な奨学事業財源の確保と有効活用を図っていくため、更に3億円を奨学基金として積み立て、総額6億円まで増額させる計画を策定した。2014年度には具体化したいと考えている。

④ 建物、設備の修繕・改修計画の策定

学院創立100周年記念事業の一つとして検討してきた体育館の空調化については、2013年度中にアリーナ1及び2への空調設備を計画を前倒しして設置完了した。体育館1階部分への空調設備及び校舎空調機器の取り換えについては、今後継続して検討していく。

なお、校舎4階部室ビレッジ改修のための設計については、具体的な進展がみられなかった。

2013年度中の主な施設設備の改修・整備、機器設置・入れ替えは、以下のとおりである。

1)校舎屋上トップライトのシーリング打ち替え、2)高校普通教室の床補修、3)化学講義室流し台の設置、4)多目的ホールへの映像機器設置(中学校・高等学校卒業生記念事業として)、5)複写機の入替え、6)AEDの入替え

⑤ 事務システムの構築

本部・大学との事務システムの平準化を図るため、2013年度から経理関係・庶務関係を中心とした事務システムの開発に着手した。年度内に一部のシステムが稼働し、業務の効率化にもつながっている。開発期間は2年間であることから、定期的にシステム開発の進捗状況を確認しながら、2014年度末の完了を目指している。

⑥ 西南学院小学校と中学校との連携について

西南学院小学校との間で、2014年度入学試験についての具体的な入学選考方法、スケジュールなどを確認し決定した。第1回目となる入学選考では、57名の生徒が入学することとなった。今後は、中学校・高等学校入学後の学業面の推移、生活面での動向などの情報を集積し、西南学院小学校と連携を図りながら諸問題に取り組んでいく。

また、関連して、西南学院中学校学則に定める生徒定員と学級数についても見直しを行い、一学年220名、6クラスとする申請が福岡県から認可された。

⑦ 広報活動の充実

2012年4月から設置している「広報委員会」を2014年度から「広報部」に発展させ、広報主任と広報担当者を配置することを決定した。これにより、広報活動の充実と強化が図られることとなった。また、情報発信力を強化するために2012年8月に全面リニューアルした本校ホームページでは、掲載情報の充実を随時図ってきた。

C. 東日本大震災被災地支援活動

① チャペル講話

2学期に昨年夏の福島・仙台に続いて、仙台を再訪した坂東資朗宗教主任による現地訪問報告を交えた講話がなされた。クリスマス特別礼拝において、今年度から献金送呈先に加え、献金を通して活動に参加することとした「サンタプロジェクト九州」の、福島県保育園・幼稚園訪問を記録した映像レポートを上映し、支援への賛同・参加を呼びかけた。

② 現地からの支援活動報告の掲示

仙台北教会(2014年度から長命丘教会と改称)の金丸真牧師が発信を続けておられる「金丸通信」に加えて、日本バプテスト連盟の被災地支援委員会のニュースレター「祈りの絆」をエントランスホールに継続的に掲示した。

③ クリスマス献金・「震災わすれない募金 2014」

被災地支援活動関連の送呈先は下記のとおり。

クリスマス献金：あしなが育英会、日本バプテスト連盟被災地支援募金、外国人被災者支援センター(以上2012年度から継続)、サンタプロジェクト九州(今年度

から)

また、2014年3月11日に中高合同プログラムとして200名を超える生徒の参加を得て行った「震災わすれない募金2014」では42万円を超える献金をお預かりし、上記4団体に送呈させていただいた。

D. 学友会活動の2013年度の主な実績

① 高等学校

「九州大会」

- ・写真部：7/12～14(佐賀県、九州高文連写真展) 優秀賞・特別賞 3年山口可鈴
- ・書道部：7/12～14(佐賀県、九州高文連書道展) 優秀賞・奨励賞 2年斎藤美羽
- ・ヨット部：6/14～16(熊本県、インターハイ九州予選)

男子シーボッパー級 3年神崎崇志 第7位

女子FJ級 3年阿河結梨・3年上野玲海 第10位

2年田中里麻・2年岩田結 第14位

2年小野万優子・2年伴ちひろ 第16位

- ・陸上部：6/14～17(福岡県、北九州地区大会)

男子110MH 3年上野佑太 優勝 14秒55

2年勝元森羅 第7位 15秒38

男子400MH 3年御堂耕平 第7位 54秒25

男子400Mリレー 1年金子健太・2年勝元森羅

3年緒方裕貴・3年上野佑太 準決勝進出

女子走幅跳 3年高田夏来 第13位 5M19

10/11～13(佐賀県、全九州高校新人大会)

男子110MH 2年勝元森羅 第5位 15秒16

男子400MH 2年勝元森羅 優勝 53秒69

- ・女子ハンドボール：2/6～9(大分県、九州高校選抜大会) 15名

「全国大会」

- ・写真部：7/24～27(長崎県、全国総文祭) 文化連盟賞 3年中西月緒
- ・書道部：8/1～2(長崎県、全国総文祭) 文化連盟賞 3年吉岡桃子
- 8/15(学生書道コンクール) 毎日新聞社賞(全国2位) 2年江頭あおい
- ・陸上部：8/1～8/3(大分県、インターハイ)

男子110MH 3年上野佑太 第4位 14秒33(県高校新記録)

10/4～8(東京都、国民体育大会)

男子110MH 3年上野佑太 準決勝進出

10/18～20(愛知県、日本ジュニア選手権)

男子110MH 3年上野佑太 準決勝進出

10/18～20(愛知県、日本ユース選手権)

男子400MH 2年勝元森羅 優勝 52秒69

② 中学校

「九州大会」

- ・硬式テニス部：3/27～28(沖縄市、新人戦九州大会) 男子団体戦出場

(4) 小学校

A. 小学校開校 4 年目の動き

2013 年 4 月 1 日現在、教職員 27 名(専任教員 15 名、常勤講師 4 名、非常勤講師 5 名、専任職員 1 名、嘱託職員 5 名、臨時職員 1 名)を配置し、初めて小学校に 1～6 年生まで揃った開校 4 年目を迎えた。4 月 9 日に入学式を行い、1 年生 70 名が入学したことにより、1 年生から 6 年生までの児童総数は 415 名となった。

B. 教育プログラムの推進

今年度も本校独自の教育プログラムを積極的に展開した。前年度までの反省点を踏まえながら各行事の改善に取り組み、ネイバーキャンプ、ネイチャーキャンプ、スポーツフェスティバルやアSEMBリーなどの縦割教育、春・秋に実施するアートウィークなどの芸術鑑賞、ミッションウィークやクリスマス礼拝などのキリスト教に関する行事など、多様な年間プログラムを実施した。また、西南学院大学の留学生と各年次ごとに交流会を行うなど、ウイングタイムを利用した特別授業も実施した。

C. 転入学試験の実施

入学定員を満たしていない新 2 年生について転入学試験の実施を企画したが、条件を満たす受験生を得ることができず、実施できなかった。

D. 後援会組織の活動

後援会発足 4 年目を迎え、会員数も増加したことから、後援会からの支援体制がさらに充実したものになった。昨年に引き続き引き続き図書購入費及び学校環境整備費をご支援いただき、図書館及び校内外の環境整備を更に進めることができた。また、後援会有志のボランティアによる児童の登下校時の見守り活動も継続して実施され、物心両面におけるサポートを受けることで、児童が快適な学校生活を送ることができた。

E. クリスマス献金

児童・保護者から寄せられたクリスマス献金(220,554 円)を下記の団体に寄付した。

『ペンシャワール会』	100,554 円
『東日本大震災義援金』	60,000 円(西南学院義援金口に入金)
『フィリピン台風救援金』	60,000 円(日本赤十字社に振込)

(5) 舞鶴幼稚園

2013 年度の主な事業は次のとおり。

① 保育の質の向上

これまでの保育実践の積み重ねを踏まえて、西南学院大学人間科学部児童教育学科教員の助言を受けながら、カリキュラムを作成した。

また、外部講師を招いたり、内部でのテーマを持っての園内研究会を積極的に行った。

② 地域の子育て支援

施設設備や自然環境に恵まれた幼稚園の機能を生かした「親子であそぼう会」や「育児相談会」「園庭開放」など、子育て支援の充実に努めた。

③ 子ども子育て新制度について

新制度を教師全体で学びあい、これからの方向性を探っている。

④ 早緑子供の園との連携

保育の交流を行い、新制度を考える研究会も実施した。

⑤ 創立 100 周年記念事業

創立 100 周年を迎え、教師たち全員で保育の歴史を振り返り学ぶことができた。

また、新たな思いで次の時代への歩みにつなげていこうとしている。感謝の思いをもって、記念式典、祝賀パーティーを多くの方々と共に祝いすることができた。

⑥ 施設管理

2011 年度に行われた施設点検に基づき、計画的に必要な修理を行っている。幼稚園の施設管理、備品用品の購入と構築物を含めた保全のシステムを作り、教職員全員で管理する意識を持つようにした。

⑦ キリスト教保育の浸透

花の日礼拝、運動会、クリスマス礼拝、卒業礼拝などの行事を通して、また、保育参観で子どもと一緒に礼拝することにより、保護者のキリスト教保育への理解が深まった。また週 1 度の父母礼拝を鳥飼教会で守ることで、教会が身近なものと感じられるようになったとの声も聴くことができた。

（６）早緑子供の園

西南学院の保育所として、乳幼児期の子どもたちにキリスト教を土台とした人間教育の基礎を培うべく、クラス編成を見直した。これまでの3～5歳児クラスの縦割り保育に加え、1～2歳児クラスも混合の縦割り編成とし、幅広い人間関係の中で可能となる多面的な学びの機会を得ることが、子どもたちの真の自立につながっていくことを目的としている。縦割り保育・乳児保育・障がい児保育については、研究会での実践発表依頼や保育見学の希望も多く、自らの実践を省察する機会とも捉え、園の保育を積極的に対外的な場面で発信した。

A. 2013年度の主な事業

① 保育内容の充実

一昨年度に内容の点検・見直しを行った保育課程を、実際の保育の中で確認・検討した。今後も引き続き実践の中で点検していく。

② 園内研究会・保育内容検討会の充実

体系的に保育の点検を行った。加えて、私立保育連盟の全国大会や学会において、保育士が障がい児保育や乳児保育についての実践発表を行い、対外的な場で学ぶ機会も持った。

③ 保育所情勢

保育協会などが開催する研修会などに積極的に参加し、認定子ども園への移行に関する事項も含めて新しい情報を得るように心がけた。舞鶴幼稚園との合同勉強会では、大学の人間科学部教授による専門的見地からの助言をいただき、今後の課題と展望を持ちながら、今後の検討事項を整理した。

④ 西南学院大学・西南学院小学校・西南子どもプラザとの連携

大学生が卒論研究や行事の手伝いで園を訪れる機会が多かった。小学校とは継続的な交流を目指し、園児が小学校訪問を行った。異年齢交流の貴重な体験ができた。

⑤ 舞鶴幼稚園との連携

西南学院の乳幼児保育・教育施設として、保育・教育面はもとより、施設設備に関する事項や地域への貢献など、日常的に連携・協力しながら進めた。今後、保育新制度の施行を見据え、共に検討していきたい。

⑥ 施設・設備

2011年度に行われた施設点検に基づき、緊急度に従って計画的に必要な修理などを行った。乳児園庭のフェンスや垣根の取替えに加え、園児の安全対策のために、園庭にある園舎の柱やスロープに防護マットを巻くなど、整備を進めた。

⑦ 地域への貢献

地域の親子を対象としての「保育園で遊ぼう会」を、土曜日だけでなく平日にも行い、同時に育児相談の場も設けるなど地域の子育てを支援する事業に取り組んだ。

B. 宗教活動・行事

① イースター礼拝：4月15日

年長児が製作したエッグキャンドルを飾り、幼児クラスで礼拝を守った後、卵のお菓子探しをして祝った。

- ② 舞鶴幼稚園との合同礼拝：花の日(6月3日)・感謝祭(11月5日)
幼児クラスの子どもたちが、舞鶴幼稚園園児と共に礼拝を守り、その後日ごろお世話になっている方々に、お花や果物を届けた。
- ③ クリスマス行事
- i. アドベント礼拝・ツリー点灯式：12月2日
各クラスでのアドベント礼拝、全体でのツリー点灯式を行った。この日から毎日アドベントカレンダーの窓を開け、クランツに火を灯しながらクリスマスを迎える準備を進めた。
 - ii. こひつじクリスマス(乳児クラス)：12月7日
クラスごとに保護者も一緒に礼拝を守り、降誕のお話を人形や大型絵本などで観て、その後会食をしてクリスマスを祝った。
 - iii. クリスマスメッセージ・さみどりクリスマス：12月21日
園長による保護者対象のメッセージ「クリスマスの贈り物」の後、子どもたちがキャンドルサービスや降誕劇を行い、クリスマスの喜びを伝えた。
- ④ 鳥飼バプテスト教会礼拝
幼児クラスの子どもたちが毎月鳥飼教会に出かけて、礼拝堂で牧師先生から神様の話をしていただいた。3月には年長児が卒園礼拝を守った。
- ⑤ 聖書を学ぶ会
- i. 職員対象
年に3回、リディア・ハンキンス宗教主事を招き、月の聖句の背景や意味、子どもたちへの伝え方について学んだ。
 - ii. 実習生対象
西南学院大学の学生が主の実習期間(年3回)に、リディア・ハンキンス宗教主事にキリスト教保育についての話をしていただき、共に学びの時を持った。
- ⑥ 保護者対象
毎月の園だよりで月の聖句や賛美歌を知らせたり、行事の際に礼拝を守ることに
よって、キリスト教保育の意味を、日々の保育や子どもの姿から伝えた。

2. トピックス

(1) 各学校・園行事〔2013(平成25)年4月～2014(平成26)年3月〕

	(1) 学 院 本 部 ・ 事 務 局	(2) 大 学
4月	・新任教職員オリエンテーション(2日) ・キ学教同盟西南地区協議会総会(19日)	・入学式(1日) ・オリエンテーション(2～4日) ・前期授業開始(法科大学院:2日、学部:8日、大学院:15日) ・九州六大学野球春季応援合戦(20日)
5月	・学院創立記念式典(15日)	・学院創立記念式典(15日) ・留学生別科終了式(17日) ・春季キリスト教フォーカス・ウィーク(28～30日)
6月	・キ学教同盟総会(7～8日) ・キ学教同盟西南地区中高聖書科研修会(13～14日) ・日本バプテスト連盟事業体懇談会(21日)	・入試説明会(29日)
7月	・西南学院フェア(1日～8月4日) ・キ学教同盟事務職員夏期学校(27～29日) ・キ学教同盟夏期研究集会(29～31日)	・入試説明会(1～5日、8日) ・前期試験(法科大学院:24日～8月6日、 学部:29日～8月6日)
8月	・キ学教同盟西南地区新任教師オリエンテーション(1日) ・キ学教同盟西南地区夏期学校(1～2日) ・キ学教同盟西南地区校長会(2日) ・職員夏期修養会(20～21日) ・キ学教同盟西南地区大学部会研究会(22～23日) ・キ学教同盟西南地区事務職員研修会(22～23日) ・キ学教同盟大学部会研究集会(28～29日)	・オープンキャンパス(3～4日) ・夏季休暇(7日～9月9日) ・留学生別科入学式(22日) ・法科大学院入試(法学未修者試験・法学既修者試験) (24～25日)
9月		・大学院秋期入試(7日) ・教職員懇談協議会(19日) ・後期授業開始(20日) ・修学懇談会(21～22日) ・前期卒業証書・学位記授与式(25日) ・ホームカミングデー(29日)
10月	・伝道者養成に関する協議会(2日)	・修学懇談会(5～6、19、27日) ・3年次転・編入等、帰国子女入試(26日)
11月	・キ学教同盟西南地区事務長会(5～6日) ・キ学教同盟学校代表者協議会(8～9日) ・日本バプテスト連盟定期総会(13～15日)	・各種推薦等、2年次転・編入、外国人入試(9、14～15日) ・大学祭(14～17日) ・秋季キリスト教フォーカス・ウィーク(26～28日)
12月	・西南学院教職員クリスマス(11日) ・西南学院コミュニティ🎄クリスマス(20日)	・キャンドルサービス(24日) ・冬季休暇(28日～1月5日)
1月	・キ学教同盟西南地区校長会(24日)	・大学入試センター試験(18～19日) ・後期試験(学部:23～31日、法科大学院:24日～2月7日)
2月		・一般入試(5～8、10日) ・一般入試、大学入試センター試験利用入試(前期)等 合格発表(21日) ・大学院春期入試(22、24日) ・法科大学院入試(法学既修者試験)(25日) ・ファカルティ・リトリート(5日)
3月		・大学入試センター試験利用入試(後期)合格発表(12日) ・卒業礼拝、卒業証書・学位記授与式(20日)

※キ学教：キリスト教学校教育同盟

	(3) 高 等 学 校	(4) 中 学 校
4月	・入学式(8日) ・始業式(9日) ・新入生オリエンテーション(10日) ・保護者学校説明会(13日) ・保護者進路説明会(20日)	・入学式(8日) ・始業式(9日) ・1年学院紹介オリエンテーション(11日) ・2年集団生活(24～26日) ・学年・学級保護者会(20日)
5月	・後援会総会(27日) ・学院創立記念式典(15日) ・中間考査(16～21日) ・同和研修会(16日) ・教育実習(7～24日) ・前期ミッションウィーク(22～24日)	・学院創立記念式典(15日) ・中間考査(16～17日) ・同和研修会(14日) ・人権・同和授業(20日) ・後援会総会(23日) ・前期ミッションウィーク(20～21日) ・教育実習(7～24日) ・クラスマッチ(31日)
6月	・同和特設授業(5日) ・保護者懇談会(12～18日) ・期末考査(20～26日) ・教員聖書研究会(28日) ・教育研究会(25日)	・期末考査(24～26日) ・保護者面談(5～11日) ・教員聖書研究会(28日) ・早朝読書週間(3～7日)
7月	・文化祭(12～13日) ・終業式(19日) ・前期補習(20～30日)	・終業式(19日) ・中体連(28日～) ・指定者補習(29日～8月6日)
8月	・訪豪研修旅行(1～13日) ・後期補習(17～26日) ・夏季教員研修会(28～29日) ・私学展(17～18日)	・夏季補習(19～26日) ・夏季教員研修会(28～29日) ・私学展(17～18日)
9月	・始業式(2日) ・スポーツフェスティバル(4～6日) ・オープンキャンパス(23日)	・始業式(2日) ・体育大会(16日)
10月	・中間考査(16～21日) ・2年生林間学校(14～18日) ・1年・3年遠足(18日) ・同和特設授業(28日) ・学校説明会(塾対象)(4日)	・中間考査(2～3日) ・学校説明会(塾対象)(4日) ・同和特設授業(3年:8日、1・2年:9日) ・入試説明会(19日)
11月	・後期ミッションウィーク(11～13日) ・保護者懇談会(6～12日) ・教育懇談会(28日) ・読書週間(5～15日) ・期末考査(28～29日)	・合唱発表会(8日) ・早朝読書週間(5～9日) ・後期ミッションウィーク(5～7日) ・期末考査(27～29日)
12月	・期末考査(2～3日) ・クリスマス礼拝(1・2年:18日、3年:19日) ・フェアウェルパーティ(17日) ・終業式(20日)	・クリスマス礼拝(17日) ・終業式(20日) ・指定者補習(21～27日)
1月	・始業式(8日) ・専願入学試験(28日) ・専願入試合格発表(30日) ・教員聖書研究会(30日)	・指定者補習(5日) ・始業式(8日) ・入学試験(22日) ・合格発表(24日) ・教員聖書研究会(30日) ・進路交流会(18日)
2月	・前期入学試験(7日) ・前期入試合格発表(12日) ・後期入学試験(15日) ・後期入試合格発表(18日) ・期末考査(21～28日) ・卒業礼拝(28日)	・3年修学旅行(13～15日) ・入学説明会(22日) ・期末考査(24～26日)
3月	・卒業式(1日) ・入学説明会(19日) ・終業式(20日) ・訪米研修旅行(20日～4月1日)	・卒業礼拝(11日) ・修了式(14日) ・終業式(20日) ・指定者補習(25～28日)

	(5) 小 学 校	(6) 舞 鶴 幼 稚 園
4月	・始業式(5日) ・入学式(9日) ・アチーブメントテスト(16日) ・懇談会(19日) ・イースターチャペル(19日) ・防犯教室(23日) ・1・2年合同下校(24日) ・ウェルカムピクニック(26日) ・ウェルカムアセンブリ(26日)	・始園式(10日) ・入園式(12日) ・教会学校開始(15日) ・イースター礼拝(15日) ・家庭訪問(15日～) ・未就園児保育、預かり保育開始(25日) ・母の会総会(26日)
5月	・音楽観賞会(7日) ・避難訓練(9日) ・学院創立記念式典(15日) ・1・2・6年学習参観(16日) ・ミッションウィーク(20～21日) ・3・4・5年学習参観(23日) ・ネイバーキャンプ(1・2年)(30～31日)	・父母礼拝開始(全22回)(10日) ・父親参加の日(12日) ・光組社会見学(14日) ・学院創立記念式典(15日) ・ミニ講演会、育児相談(16日) ・創立100周年記念講演会(18日) ・親子であそぼう会(全9回)(22日) ・歓迎遠足(23日) ・防災訓練(27日)
6月	・後援会総会(4日) ・花の日チャペル(感謝訪問)(4日) ・ネーチャーキャンプ(3・4年)(6～7日) ・個人懇談(12～19日)	・花の日礼拝(3日) ・保育参観、懇談(11日、14日) ・光組社会見学(26日)
7月	・アートウィーク(4～11日) ・学校公開・説明会(6日) ・平和学習(25日) ・終業式(26日)	・光組社会見学(9日) ・1学期終業(17日) ・光組合宿保育(18～20日) ・未就園児対象水あそび(西南学院フェア)(23日)
8月		・夏期保育(28～31日)
9月	・始業式(2日) ・夏休み作品展(5～12日) ・入試説明会(7日) ・ヒストリーツアー(5年)(18～19日)	・2学期始業(3日) ・まいづるまつり(8日) ・避難訓練(地震)(19日)
10月	・スポーツフェスティバル(12日) ・避難訓練(17日) ・ミッションウィーク(23～24日)	・新年度入園募集説明会(2日、26日) ・運動会(9日) ・月組お泊り保育(24～25日)
11月	・サンクスギビングチャペル(1日) ・入学試験(15～16日) ・舞台芸術観賞会(22日) ・合格発表(25日) ・クリスマスツリー点灯式(25日)	・新入園児願書受付、面接(1日) ・感謝祭礼拝(5日) ・光組社会見学(7日) ・創立100周年記念式典、祝賀パーティ(8～9日) ・みかん狩り遠足(12、14日) ・未就園児クラス募集説明会(20日) ・クリスマス礼拝(29日)
12月	・秋のアートウィーク(2～6日) ・学習参観・懇談会(7日) ・クリスマスチャペル(19日) ・終業式(20日)	・クリスマス祝会(14日) ・もちつき大会(17日) ・2学期終了(18日)
1月	・始業式(8日) ・アチーブメントテスト(14日) ・新1年生入学説明会(25日) ・ブレインオリンピック(30～31日)	・3学期始業(8日) ・避難訓練(不審者)(21日)
2月	・冬のアートウィーク(10～14日) ・学習発表会(14日) ・ウィングツアー(6年)(22～27日)	・春をよぶ会(19、25～26日) ・母の会総会(21日) ・光組社会見学(27日)
3月	・学習参観・懇談会(6・7日) ・フェアウェルアセンブリ(11日) ・卒業礼拝(14日) ・卒業証書授与式(15日) ・修了式(25日) ・入学手続日(27日)	・卒業礼拝(2日) ・卒業式(15日) ・終業式(18日) ・新入園児健康診断(21日) ・子ども同窓会(22日)

(7) 早 緑 子 供 の 園	
4月	・入園式(1日) ・イースター礼拝(15日) ・年長児社会見学(24日)
5月	・春季総合健診(10日) ・学院創立記念式典(15日) ・保育園で遊ぼう会(15日) ・保護者会総会(18日) ・親子遠足(18日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(26日)
6月	・花の日礼拝(3日) ・保護者懇談会(14日) ・歯科検診(17日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(18日) ・田植え体験(28日)
7月	・保育園で遊ぼう会(6日) ・さみどりこどもまつり(13日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(16日) ・プールびらき(18日) ・小中学生の集い(23、30日)
8月	・小中学生の集い(6日) ・お泊り保育説明会(23日)
9月	・お泊り保育(6～7日) ・保育園で遊ぼう会(11日) ・おじいさんおばあさんと遊ぶ会(20日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(24日) ・卒園記念製作(やきものづくり)(26日)
10月	・年長児社会見学(2日) ・秋季総合健診(3日) ・育児講座(5日) ・運動会(19日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(22日) ・年長児稲刈り体験(22日) ・幼児クラス遠足(30日)
11月	・新年度入所申し込み書配布開始(1日) ・感謝祭礼拝(5日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(12日) ・保育園で遊ぼう会(16日) ・入園説明会(16日) ・保護者会クリーン大作戦(16日) ・お米パーティー(16日) ・年長児社会見学(21日)
12月	・アドベント礼拝(2日) ・ツリー点灯式(2日) ・こひつじクリスマス(7日) ・さみどりクリスマス(21日)
1月	・保育園で遊ぼう会(11日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(14日) ・小学生同窓会(25日)
2月	・保育園で遊ぼう会(4日) ・鳥飼バプテスト教会幼児礼拝(13日) ・育児講座(15日) ・年長児南当仁小学校訪問(14日)
3月	・卒園礼拝(4日) ・年長児西南学院小学校訪問(7日) ・保護者懇談会(7、14日) ・お別れ会(11日) ・お別れ遠足(12日) ・卒園式(22日)

(2) 認可・認定・届出

- ・ 西南学院中学校の収容定員に係る学則変更認可

申 請 年 月 日 : 2013(平成25)年5月30日

認 可 年 月 日 : 2014(平成26)年3月31日

変 更 内 容 : 収容定員を各学年220名の6学級、全学年660名の18学級へと
変更することに伴う学則変更。

(3) 名誉顧問・名誉教授・名誉博士

2014(平成26)年3月31日現在

名誉顧問

氏 名	授与年月	氏 名	授与年月
伊 藤 隆 夫	2003. 3	寺 園 喜 基	2013. 3
L . K . シ イ ー ト	2004. 4		

名誉教授

氏 名	授与年月	氏 名	授与年月
ヴェラ L. キャンペルーガラット	1980. 4	太 田 和 男	2003. 4
ロバート H. カルベッパ	1980. 4	山 崎 勇 視	2004. 4
山 崎 剛	1993. 4	西 嶋 幸 右	2004. 4
杉 原 実	1993. 4	山 中 耕 作	2004. 4
唐 木 田 芳 文	1994. 4	L . K . シ イ ー ト	2004. 10
堤 克 彦	1994. 10	ハーシェル C. ジョンソン	2004. 10
中 尾 英 俊	1995. 4	古 川 暢 朗	2005. 4
大 内 和 臣	1995. 4	堺 太 郎	2005. 4
尾 崎 恵 子	1996. 4	片 岡 章	2006. 4
岡 本 幸 雄	1996. 4	小 森 俊 介	2007. 4
後 藤 泰 二	1996. 4	古 川 卓 萬	2007. 4
関 谷 定 夫	1996. 4	斉 藤 末 弘	2007. 4
泉 マ ス 子	1997. 4	村 上 隆 太	2008. 4
ヒュー H. ヤング	1997. 4	戸 星 善 宏	2008. 4
中 村 清	1997. 4	吾 郷 健 二	2010. 4
安 徳 典 光	1999. 4	大 濱 順 彦	2010. 4
平 野 正	1999. 4	井 口 正 俊	2010. 4
河 野 信 子	1999. 4	堤 啓 次 郎	2010. 4
屋 宜 和 夫	1999. 4	森 泰 男	2011. 4
古 澤 嘉 生	2000. 4	小 林 洋 一	2012. 4
田 代 義 範	2000. 4	安 河 内 英 光	2012. 4
上 野 武	2000. 4	前 田 芳 人	2012. 4
原 田 三 喜 雄	2001. 4	新 谷 正 彦	2012. 4
佐 渡 谷 重 信	2002. 4	河 島 幸 夫	2012. 4
八 木 幹	2002. 4	青 野 太 潮	2013. 4
中 村 栄 子	2002. 4	古 屋 靖 二	2013. 4
八 田 正 光	2002. 4	土 方 久	2013. 4
山 口 稻 生	2002. 4	王 孝 廉	2013. 4
川 島 信 義	2002. 4	沢 野 直 紀	2013. 4

名誉博士

氏 名	授与年月
J. ゴードン キングスレー	1989. 11

2013(平成25)年度中の異動

名誉教授 中川ノブ氏は2013(平成25)年5月3日逝去

名誉教授 井上康男氏は2013年(平成25)年6月2日逝去

名誉教授 ジョン W. シェパード氏は2014(平成26)年2月1日逝去

(4) 学位授与

2014(平成26)年3月31日現在

報告番号	博士の専攻分野の名称	授与年月日	論文審査終了年月日
甲第25号	博士(法学)	平成26年3月20日	平成25年6月12日
甲第26号	博士(経営学)	平成26年3月20日	平成26年2月 3日

3. データ

(1) 学生・生徒・児童・園児数

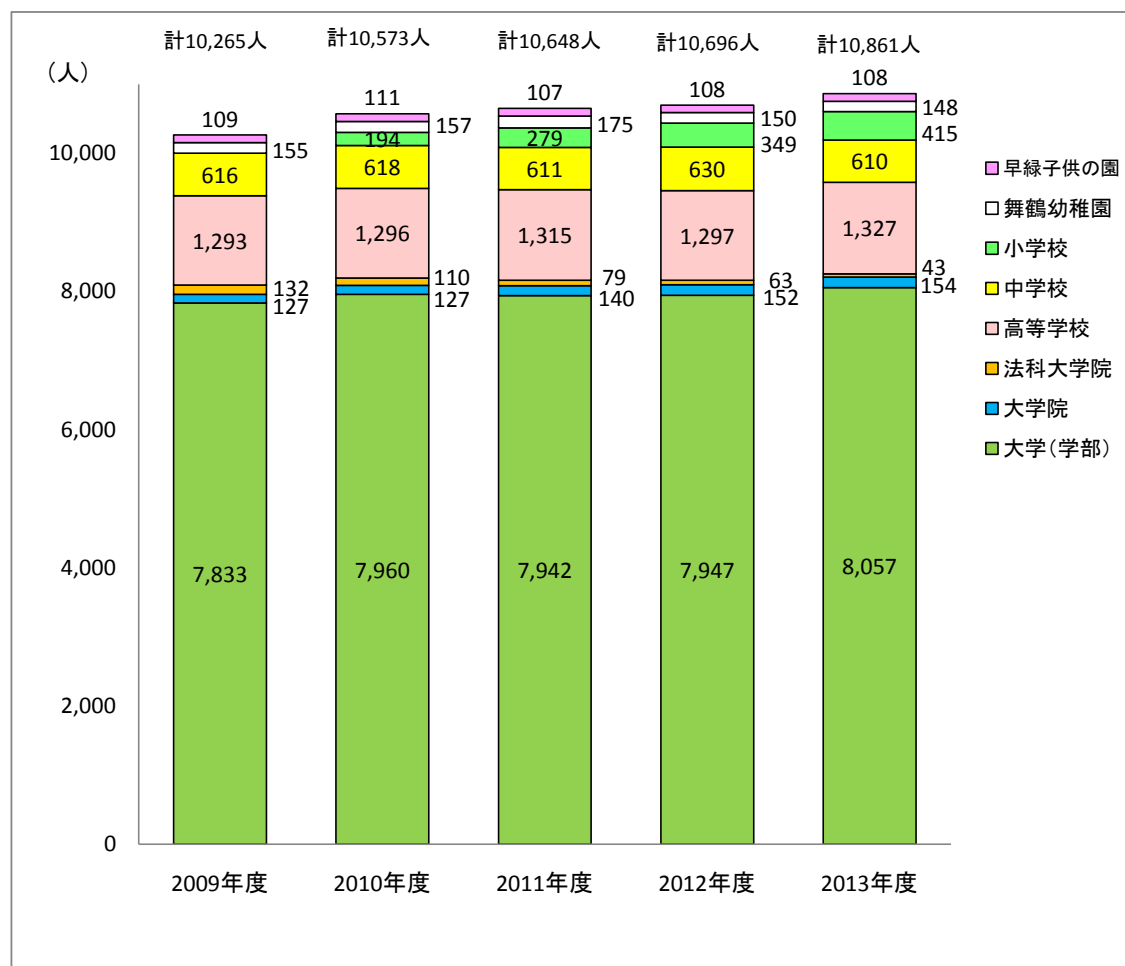
2013(平成25)年5月1日現在

学 校 ・ 学 部 ・ 学 科 等				収 容 定 員	入 学 者	総 数		
大	神 学 部	神 学 科		40	5	48		
	文 学 部	英 文 学 科		400	120	478		
		外国語学科	英 語 専 攻	400	121	493		
			フ ラ ン ス 語 専 攻	200	56	240		
	商 学 部	商 学 科		600	186	741		
		経 営 学 科		600	184	775		
	経 済 学 部	経 済 学 科		800	222	972		
		国 際 経 済 学 科		400	122	471		
	法 学 部	法 律 学 科		1,080	317	1,326		
		国 際 関 係 法 学 科		320	96	418		
	人 間 科 学 部	児 童 教 育 学 科		400	128	479		
		社 会 福 祉 学 科		540	170	636		
		心 理 学 科		200	87	223		
	国際文化学部	国 際 文 化 学 科		600	206	757		
	(小 計)				6,580	2,020	8,057	
	学	大学院	法 学 研 究 科	法律学専攻	博士前期	20	1	4
博士後期				9	1	4		
経 営 学 研 究 科			経営学専攻	博士前期	20	18	29	
			博士後期	9	3	6		
文 学 研 究 科			英 文 学 専 攻	博士前期	20	5	13	
			博士後期	9	0	2		
			フ ラ ン ス 文 学 専 攻	博士前期	10	1	2	
			博士後期	9	1	2		
経 済 学 研 究 科			経済学専攻	博士前期	14	3	5	
			博士後期	9	2	2		
神 学 研 究 科			神 学 専 攻	博士前期	14	4	16	
			博士後期	6	0	1		
人 間 科 学 研 究 科			人間科学専攻	博士前期	20	3	17	
			博士後期	9	1	7		
国 際 文 化 研 究 科			国際文化専攻	博士前期	20	10	28	
			博士後期	9	1	16		
(小 計)				207	54	154		
大学院法務研究科(法科大学院)			専門職学位	105	16	43		
専攻科		神 ・ 商 ・ 経 済			30	0	0	
選科生	神 学 部			若干名	0	1		
留 学 生 別 科				30	66	44		
〔 大 学 計 〕				6,952	2,156	8,299		
高 等 学 校				1,350	461	1,327		
中 学 校				600	199	610		
小 学 校				420	70	415		
舞 鶴 幼 稚 園				160	49	148		
早 緑 子 供 の 園				90	18	108		
〔 合 計 〕				9,572	2,953	10,907		

注：大学学部の入学者数は1年次入試のみ。

学生・生徒・児童・園児数の推移

各年度 5月1日現在



※大学専攻科、選科生、留学生別科の学生数は含まない。

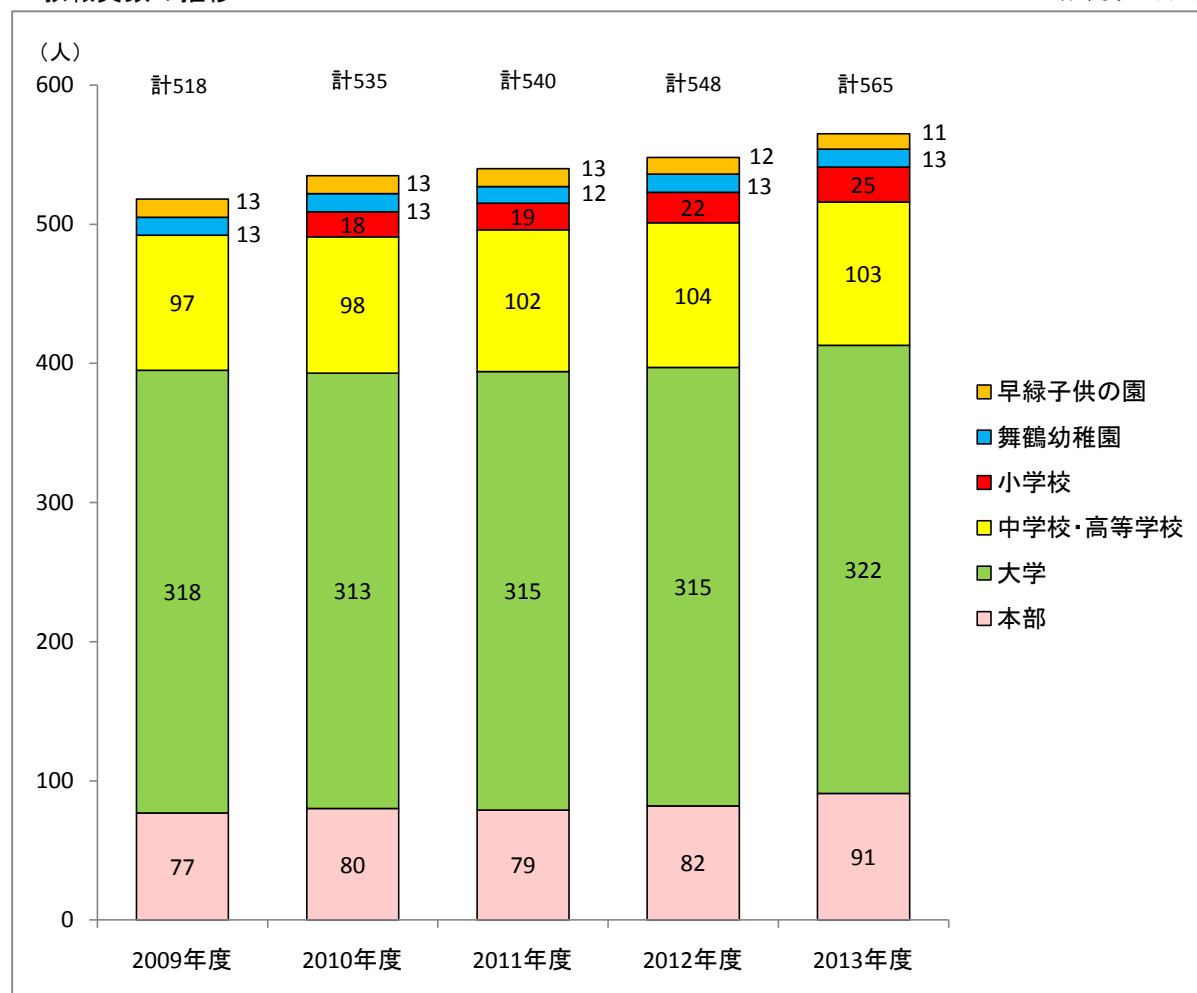
(2) 教職員数

2013(平成25)年5月1日現在

学 校 等	専任教員	特別教員	実務家教員 (法科大学 院)	常勤講師 (外国語教員 含む)	特任教員 (保育士含 む)	専任職員	嘱託職員	契約職員	計
本 部	-	-	-	-	-	74	13	4	91
大 学	191	7	6	6	-	83	23	6	322
高等学校	46	-	-	10	-	11	10	1	103
中 学 校	21	-	-	4	-				
小 学 校	15	-	-	4	-	1	5	-	25
舞鶴幼稚園	9	-	-	-	3	-	1	-	13
早緑子供の園	8	-	-	-	1	-	2	-	11
合計	290	7	6	24	4	169	54	11	565

教職員数の推移

各年度 5月1日現在



(3) 入学試験日程

2014(平成26)年度入学試験日程

入 学 試 験 等			願 書 受 付 期 間		試 験 日		合 格 者 発 表 等		
大 学 院	推 薦	指 定 校	2013(平成25)年10月15日(火) ～10月25日(金)		11月 9日(土)		11月21日(木)		
		独 自 指 定 校 (神・英文・フランス専・商・経・法・児教・社福・国文)							
		西 南 女 学 院 高 校							
		西 南 学 院 高 校	11月 9日(土) 筆記 11月15日(金) 面接						
		公 募 制 (英文・フランス専・商・経済・法)	2013(平成25)年10月21日(月) ～11月 1日(金)		11月14日(木)				
	A O 選 抜 入 試 (英 専)		2013(平成25)年 9月24日(火) ～10月 4日(金)		10月26日(土)		10月31日(木)		
	指 定 校 選 抜 入 試 (英 専)		2013(平成25)年10月21日(月) ～11月 1日(金)		11月14日(木)		11月21日(木)		
	一 般	商 学 部	2014(平成26)年 1月 6日(月) ～ 1月21日(火)		2月 5日(水)		2月21日(金)		
		国 際 文 化 学 部			2月 6日(木)				
		神 学 部			2月 7日(金)				
		経 済 学 部			2月 8日(土)				
		人 間 科 学 部			2月10日(月)				
	文 学 部								
	法 学 部								
	全 学 部								
	一般・センター併用型入試		2014(平成26)年 1月 6日(月) ～ 1月17日(金)		一般入試及びセンター 試験を受験		3月12日(水)		
	大学入試センター試験利用入試 (前期)				1月18日(土) ～1月19日(日)				
	大学入試センター試験利用入試 (後期)		2014(平成26)年 2月14日(金) ～ 3月 3日(月)						
	3 年次転・編入等		2013(平成25)年 9月24日(火) ～10月 4日(金)		10月26日(土)		10月31日(木)		
	帰国生								
	2 年次転・編入		2013(平成25)年 9月30日(月) ～10月11日(金)		11月15日(金)		11月21日(木)		
	外国人								
	大 学 院	博 士 前 期 (法学研究科 経営学研究科 文学研究科 経済学研究科 神学研究科 人間科学研究科 国際文化研究科)	秋 期	一般・外国人等(国内居住者)及び社会人		9月 7日(土)		9月11日(水)	
				2013(平成25)年 7月10日(水) ～ 7月19日(金)					
			春 期	一般・外国人等(国内居住者)及び社会人		2月22日(土)		2月28日(金)	
2014(平成26)年 1月 8日(水) ～ 1月17日(金)									
※飛び級									
2014(平成26)年 2月 3日(月) ～ 2月10日(月)									
期			外 国 人 等 (国 外 居 住 者)						
			2014(平成25)年10月 4日(金) ～11月 8日(金)						
			春 期	一般・外国人等(国内居住者)及び社会人		2月24日(月)			
				2014(平成26)年 1月 8日(水) ～ 1月17日(金)					
外 国 人 等 (国 外 居 住 者)									
2013(平成25)年10月 4日(金) ～11月 8日(金)									

入 学 試 験 等			願 書 受 付 期 間	試 験 日	合格者発表等
大 学 学 院	大 学	専門職学位 法務研究科(法科大学院)	法学未修者及び法学既修者 (8月試験)	法学未修者 8月24日(土) 小論文	9月 11日(水)
			2013(平成25)年 7月22日(月) ～ 8月 5日(月)	法学既修者 8月24日(土) 憲法、刑法 8月25日(日) 民法、商法	
			法学未修者(適性第4部利用試験)		
			2013(平成25)年 9月13日(金) ～ 9月24日(火)		10月 8日(火)
			法学未修者及び法学既修者 (2月試験)	法学未修者 2月 8日(土) 小論文	2月25日(火)
			2014(平成26)年 1月10日(金) ～ 1月24日(金)	法学既修者 2月 8日(土) 憲法、刑法 2月 9日(日) 民法、商法	
高 等 学 校	専 願 入 試		2014(平成26)年 1月22日(水) ～1月24日(金)	1月28日(火)	1月30日(木)
	前 期 入 試		2014(平成26)年 1月30日(木) ～2月 5日(水)	2月 7日(金)	2月12日(水)
	後 期 入 試		2014(平成26)年 2月12日(水) ～2月14日(金)	2月15日(土)	2月18日(火)
中 学 校			2013(平成25)年12月20日(金) ～2014(平成26)年1月14日(火)	1月22日(水)	1月24日(金)
小 学 校			2013(平成25)年 9月 9日(月) ～10月 4日(金)	10月28日(月) ～11月8日(金) 面接 11月15日(金) 個別適性検査① 11月16日(土) 個別適性検査②及び 集団適性検査	11月25日(月)
幼 稚 園			2013(平成25)年11月 1日(金)	11月1日(金) 面接	11月1日(金)

(4) 入学志願者数及び合格・許可者数
2014(平成26)年度入学志願者数・合格者数

学 校 ・ 学 部 ・ 学 科 等				入学定員	入学志願者数		合格者・許可者数			
大 学 院	神 学 部		神 学 学 科	10	93		27			
	文 学 部	英 文 学 学 科		100	1,289		414			
		外 国 語 学 科	英 語 専 攻	100	1,319		336			
			フ랑스語専攻	50	571		231			
	商 学 部	商 学 学 科		150	2,285		626			
		経 営 学 学 科		150	1,855		507			
	経 済 学 部	経 済 学 学 科		200	2,555		899			
		国 際 経 済 学 学 科		100	1,499		497			
	法 学 部	法 律 学 学 科		270	2,108		911			
		国 際 関 係 法 学 学 科		80	516		232			
	人 間 科 学 部	児 童 教 育 学 学 科		100	1,646		378			
		社 会 福 祉 学 学 科		110	1,464		433			
		心 理 学 学 科		100	1,145		421			
	国 際 文 化 学 部	国 際 文 化 学 学 科		150	2,154		585			
	学 部 計				1,670	20,499		6,497		
	大 学 院	法 学 研 究 科	博士前期		10	秋期	0	0	2	
			博士後期		3	春期	3	2		
		経 営 学 研 究 科	博士前期		10	秋期	9	9	16	
			博士後期		3	春期	10	7		
		文 学 研 究 科	英 文 学 専 攻	博士前期	10	秋期	1	1	5	
				博士後期	3	春期	4	4		
			フ랑스文学専攻	博士前期	5	秋期	0	0	2	
				博士後期	3	春期	3	2		
		経 済 学 研 究 科	博士前期		7	秋期	0	0	2	
			博士後期		3	春期	2	2		
		神 学 研 究 科	博士前期		7	秋期	3	2	3	
			博士後期		2	春期	2	1		
		人 間 科 学 研 究 科	博士前期		10	秋期	2	1	6	
			博士後期		3	春期	7	5		
		国 際 文 化 研 究 科	博士前期		10	秋期	2	2	3	
			博士後期		3	春期	1	1		
		大 学 院 計				92	59		48	
		大学院法務研究科(法科大学院)			専門職学位	35	59		27	
		専攻科		神 ・ 商 ・ 経 済		30	2		2	
		選科生		神 学 部		若干名	3		3	
大 学 計				1,827	20,622		6,577			
高 等 学 校				450	829		569			
中 学 校				220	1,055		613			
小 学 校				70	110		89			
舞 鶴 幼 稚 園				160	56		56			
早 緑 子 供 の 園				90	62		18			
合 計				2,817	22,734		7,922			

注1. 大学学部の入学志願者数及び合格者数は1年次入試のみ。

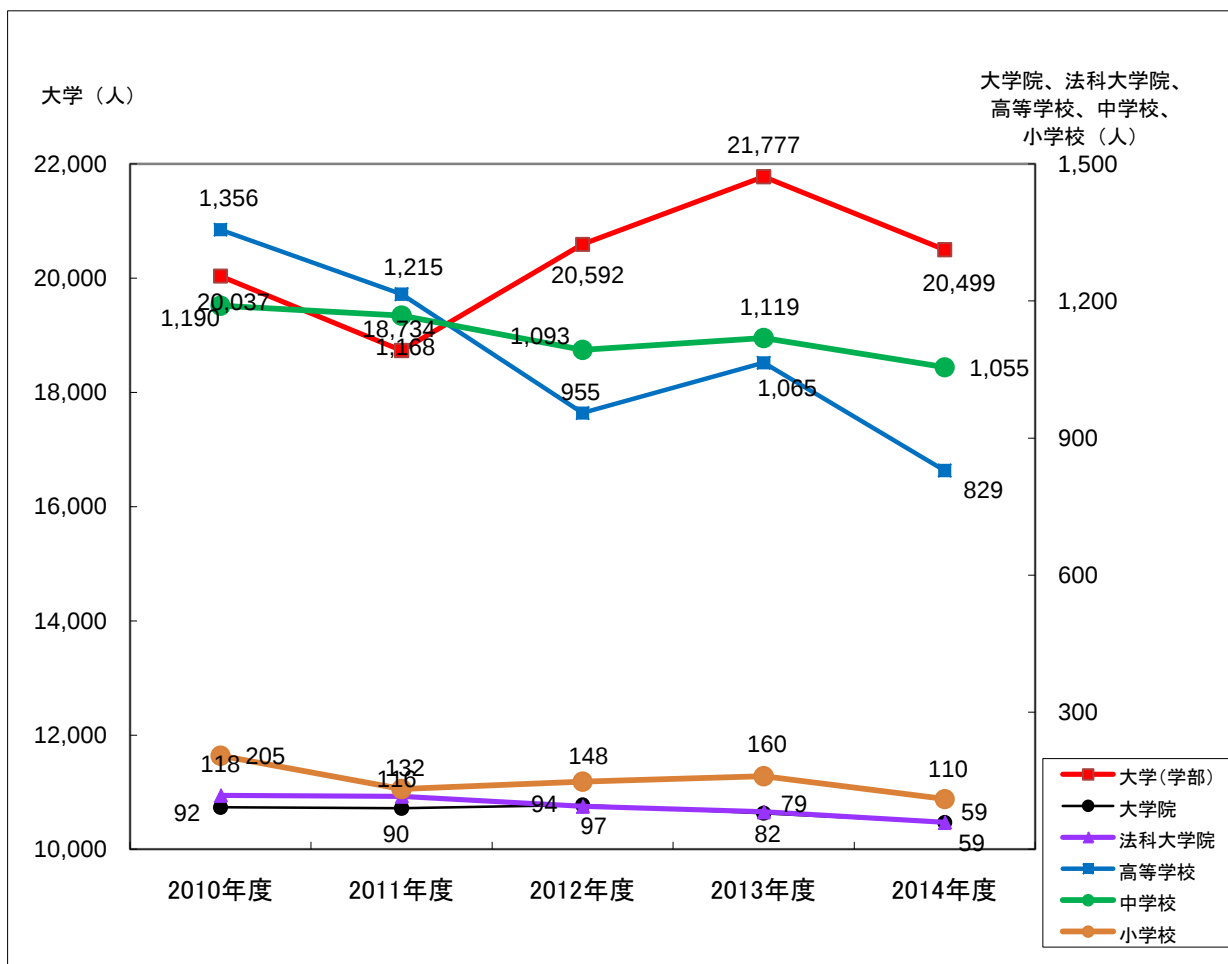
注2. 大学学部については、指定校推薦(志願者197名、合格者197名)、西南高推薦(志願者60名、合格者60名)、各種推薦等入試(志願者358名、合格者309名)、帰国生入試(志願者5名、合格者2名)、外国人入試(志願者4名、合格者3名)を含む。

注3. 留学生別科は除く。

注4. 高等学校、中学校及び小学校の入学志願者数並びに合格者数は1年生のみ。

注5. 舞鶴幼稚園及び早緑子供の園の入学定員は収容定員を示す。

入学志願者数の推移



注1. 大学学部の入学志願者数は、1年次入試のみ。

注2. 大学学部については、各種推薦等入試、帰国子女入試、外国人入試の志願者数を含む。

注3. 留学生別科は除く。

注4. 高等学校、中学校及び小学校の入学志願者数は、1年生のみ。

(5) 卒業生数

2013(平成25)年度卒業生数

2014(平成26)年3月31日現在

2013(平成25)年度卒業生等						累 計	廃止学校・学部・学科等卒業生累計			
学校・学部・学科等				人 員						
大 学 部	学	神 学 部	神 学 科	10		416	文 商 学 部	神 学 専 攻	20	
			英 文 学 科	105		6,718		英文学専攻	88	
		文 学 部	外国語学科	英 語 専 攻	112	5,268		商 学 専 攻	473	
				フランス語専攻	48	2,457				
	商 学 部	商 学 科	168		13,529	文 学 部	神 学 科	113		
		経 営 学 科	175		9,046		英文学科	夜間	78	
	経 済 学 部	経 済 学 科	234		14,165	商 学 部	商 学 科	夜間	674	
		国際経済学科	112		2,520		経 済 学 科	218		
	部	法 学 部	法 律 学 科	277		14,814	文 学 専 攻 科	神 学 専 攻	53	
			国際関係法学科	88		1,638		英文学専攻	94	
人 間 科 学 部		児童教育学科	99		4,527	英 語 専 攻		14		
		社会福祉学科	158		1,752	フランス語専攻		11		
国際文化学部	国際文化学科	192		5,054	国際文化専攻	21				
(学 部 計)				1,778	81,904	商 学 専 攻 科	経 済 学 専 攻	2		
大 学 院	博 士 前 期 修 士	法 学 研 究 科	0		224	短 期 大 学 部	経 営 学 専 攻	7		
		経営学研究科	11		258		英語科第二部	324		
		文 学 研 究 科	英 文 学 専 攻	5	154		商学科第二部	1,576		
			フランス文学専攻	1	60		児童教育科	1,598		
		経 済 学 研 究 科	2		89		児童専攻科	0		
		神 学 研 究 科	9		37	高 等 学 校	定 時 制	830		
		人 間 科 学 研 究 科	9		40	早 緑 幼 稚 園	412			
		国際文化研究科	10		160	西 南 聖 書 学 院	41			
	(博士前期・修士計)				47	1,022	(廃 止 学 校 等 計)			6,647
	博 士 後 期	法 学 研 究 科	1		40	旧 制 学 校 卒 業 生 累 計				
経営学研究科		1		55						
文 学 研 究 科		英 文 学 専 攻	0	30	中 学 部	本 科	2,283			
		フランス文学専攻	0	17	商 業 学 校	本 科	456			
経 済 学 研 究 科		0		0	工 業 学 校	別 科	4			
神 学 研 究 科		0		1	高 等 学 部	英 文 科	566			
人 間 科 学 研 究 科		0		5		研 究 科	11			
国際文化研究科		7		36		補 習 科	22			
(博士後期計)				9		184	経 済 専 門 学 校	経 済 科	2,223	
(大 学 院 計)				56		1,206		商 科		
法務研究科(法科大学院)				8	239	専 門 学 校 一 部	神学科本科	30		
専 攻 科	神学専攻科	神 学 専 攻	0	267	神学科選科		12			
	商学専攻科	商 学 専 攻	0	116	英 文 科		55			
	経済学専攻科	経 済 学 専 攻	0	108	経 済 科	142				
	(専攻科計)				0	491	実 務 科	159		
選 科 生		神 学 部	0	92	専 門 学 校 二 部	別 科	271			
留学生別科(終了者)		68	861	児 童 教 育 科		4				
《 大 学 計 》				1,910	84,793	(旧制学校等計)			6,238	
高 等 学 校		全 日 制	453	24,825	合 計				12,885	
中 学 校			195	12,663	合 計				141,318	
小 学 校			68	68						
舞 鶴 幼 稚 園			55	5,213						
早 緑 子 供 の 園			21	871						
合 計				2,702	128,433					
総 合 計										

注1. 大学院博士後期課程は、単位修得満期退学者数を示す。

注2. 留学生別科は、2012-2013年度(通年・後期)及び2013-2014年度(前期)の留学生別科終了者数を示す。

(6) 大学卒業生就職状況

2014(平成26)年3月31日現在

A. 就職状況

区 分			神学部	文学部	商学部	経済学部	法学部	人間科学部	国際文化学部	合 計
卒業生総数			10	257	332	337	350	250	187	1,723
卒業後の進路	就職者数	自家営業	1		7	1				9
		自家営業以外		207	268	262	253	198	156	1,344
	進学者数	(大学院)	4	7	3	1	10	1	2	28
		(大学院以外)	2			2		2		6
	上記以外		3	43	54	71	87	49	29	336
就職希望者数			1	217	291	276	270	220	164	1,439

注1) 就職者数は、正式に「進路報告書」を提出した者および就職課で把握している内定者の合計人数

注2) 進学者数(大学院)は、大学院、法科大学院に進学した者の人数

注3) 進学者数(大学院以外)は、大学学部・学科、専攻科・別科に進学した者の人数

注4) 上記以外は、進学準備者、受験準備者、専修学校等入学者、アルバイト・パート、就職未決定者、進路未報告者等の合計人数

B. 業種別就職状況

区 分	神学部	文学部	商学部	経済学部	法学部	人間科学部	国際文化学部	合 計
農業、林業		1						1
漁業								
鉱業、採石業、砂利採取業								
建設業			10	12	6	4	2	34
製造業		13	35	27	21	6	18	120
電気・ガス・熱供給・水道業		2		4	2			8
情報通信業		18	13	15	14	6	10	76
運輸業、郵便業		23	13	12	5	3	7	63
卸売業、小売業		40	50	49	28	25	38	230
金融業、保険業		39	71	62	70	27	21	290
不動産業、物品賃貸業		10	15	8	10	5	7	55
学術研究、専門・技術サービス業		6	16	11	15	6	8	62
宿泊業、飲食サービス業		6	2	3	1	1	5	18
生活関連サービス業、娯楽業		12	6	5	8	5	10	46
教育、学習支援業		12	5	7	8	26	7	65
医療、福祉		1	5	4	6	35	6	57
複合サービス事業		2	5	6	3	4	4	24
サービス業(他に分類されないもの)		13	12	15	12	9	5	66
公務(他に分類されるものを除く)		7	9	18	39	31	5	109
上記以外のもの(自家営業・分類不能の産業)	1		7	1	1			10
合 計	1	205	274	259	249	193	153	1,334

注1) 業種別就職状況は、正式に「進路報告書」を就職課に提出した者および自家営業の合計人数とし、就職課で把握している内定者は除く。

Ⅲ. 財務の概要

2013(平成25)年度の予算の執行状況について、その資金収支計算、消費収支計算、貸借対照表、財務比率などの推移比較表等は以下のとおりである。

1. 資金収支計算

資金収支総括表
(収入の部)

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異	執行率
学生生徒納付金収入	9,139	9,124	15	100%
手数料収入	543	509	34	94%
寄付金収入	71	125	△ 54	175%
補助金収入	1,230	1,298	△ 69	106%
資産運用収入	216	258	△ 42	120%
資産売却収入	1,900	2,970	△ 1,070	156%
事業収入	276	255	20	93%
雑収入	273	326	△ 54	120%
前受金収入	1,762	1,689	73	96%
その他の収入	4,014	5,739	△ 1,726	143%
資金収入調整勘定	△ 2,136	△ 2,215	78	104%
当年度資金収入合計	17,286	20,080	△ 2,793	116%
前年度繰越支払資金	5,345	5,345		
収入の部合計	22,631	25,424	△ 2,793	

入学検定料が減少した。

創立100周年記念募金等。

有価証券の償還が行われた。

退職金団体からの交付金が増加した。

学費改定により入学金前受金が減少した。

預り金受入額が増加した。

資金の受入が次年度になるもの、又前年度に資金の受入が済んでいるものを控除している。

物品調達や業務委託内容の見直し等、経費節減に努めている。

(支出の部)

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異	執行率
人件費支出	7,227	7,182	45	99%
教育研究経費支出	2,417	2,132	285	88%
管理経費支出	834	688	146	82%
施設関係支出	1,615	1,363	252	84%
設備関係支出	260	217	43	84%
資産運用支出	4,095	4,525	△ 430	111%
その他の支出	2,896	3,745	△ 848	129%
予備費	33	33		0%
資金支出調整勘定	△ 106	△ 113	7	107%
当年度資金支出合計	19,271	19,739	△ 468	102%
次年度繰越支払資金	3,360	5,685	△ 2,325	
支出の部合計	22,631	25,424	△ 2,793	

西南学院サポートセンターの完成が翌年度になった。中央キャンパス防災管理棟建築を延期。学術研究所耐震改修工事経費が見込みより低額となった。

長期性預金への振替、施設・設備拡充引当特定資産から施設拡充引当資産への振替等。

預り金の支出が増加した。

資金の支払が次年度になるもの、又、前年度に資金の支払が済んでいるものを控除している。

当年度資金収支差額	△ 1,985	340	△ 2,325
-----------	---------	-----	---------

前年度繰越支払資金より3億4,000万円上回っている。有価証券の償還等により、現金預金有高が増加した。

経常的収支計算

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異	執行率
経常的収入(網掛け科目)	11,747	11,896	△ 149	101%
経常的支出(網掛け科目)	10,478	10,001	476	95%
経常的収支差額	1,269	1,895	△ 625	

※表中の金額は、いずれも百万円未満を機械的に端数処理しているため、合計等の数値が一致しない場合がある。

2. 消費収支計算

説明は資金収支計算書と異なる部分について行っている。

消費収支総括表

(消費収入の部)

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒納付金	9,139	9,124	15
手数料	543	509	34
寄付金	71	144	△ 73
補助金	1,230	1,298	△ 69
資産運用収入	216	258	△ 42
資産売却差額	2	2	0
事業収入	276	255	20
雑収入	273	326	△ 54
帰属収入合計	11,748	11,917	△ 169
基本金組入額合計	△ 1,430	△ 1,051	△ 379
消費収入の部合計	10,318	10,866	△ 548

寄贈図書、寄贈備品を受け入れた。

有価証券の償還差額。

(消費支出の部)

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
人件費	7,306	7,246	60
教育研究経費	3,471	3,186	286
(内、減価償却費)	1,055	1,053	2
管理経費	972	824	148
(内、減価償却費)	137	136	2
資産処分差額		4	△ 4
徴収不能引当金繰入		3	△ 3
予備費	78		78
消費支出の部合計	11,827	11,262	566

構築物等を除却した。

貸与奨学金に係る徴収不能引当金。

消費収入決算額が108億6,600万円に対し、消費支出決算額は112億6,200万円で、単年度では3億9,500万円の支出超過となる。

帰属収支差額	△ 79	655
帰属収支差額比率	-0.7%	5.5%
当年度消費支出超過額	1,509	395
前年度繰越消費収入超過額	789	789
基本金取崩額	91	109
翌年度繰越消費収入超過額		502
翌年度繰越消費支出超過額	629	

当年度支出超過に前年度収入超過と基本金取崩額を加えて5億200万円となる。予算額より11億3,100万円好転した。

※帰属収入(119.2億円)の構成比

学納金(大学)	64.1%
学納金(中高)	9.6%
学納金(小学校)	2.3%
学納金(幼稚園)	0.5%
手数料	4.3%
寄付金	1.2%
補助金	10.9%
資産運用収入	2.2%
資産売却差額	0.0%
事業収入	2.1%
雑収入	2.7%

※消費支出(112.6億円)の構成比率

教員人件費	41.0%
職員人件費	19.4%
役員報酬	0.2%
退職給与引当金繰入額	3.8%
教育研究経費	28.3%
(内減価償却費)	9.3%
管理経費	7.3%
(内減価償却費)	1.2%
資産処分差額	0.0%
徴収不能引当金繰入	0.0%

※表中の金額は、いずれも百万円未満を機械的に端数処理しているため、合計等の数値が一致しない場合がある。

3. 貸借対照表

貸借対照表

資産の部

(単位: 百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	57,740	58,386	△ 646
有形固定資産	39,916	39,509	407
その他の固定資産	17,824	18,877	△ 1,053
流動資産	7,718	6,650	1,068
合 計	65,458	65,036	422

主に新本館建築による。

有価証券の償還等。

有価証券の償還等により預金、譲渡性預金が増加した。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,066	3,110	△ 45
流動負債	2,702	2,891	△ 189
合 計	5,768	6,002	△ 233
基本金	59,188	58,245	942
消費収支差額	502	789	△ 287
合 計	65,458	65,036	422

長期リース資産の未払額が減少。

大学学費改定により入学金前受金が減少した。

取得した固定資産に係る基本金及び第2号基本金、第3号基本金の組入れを行った。

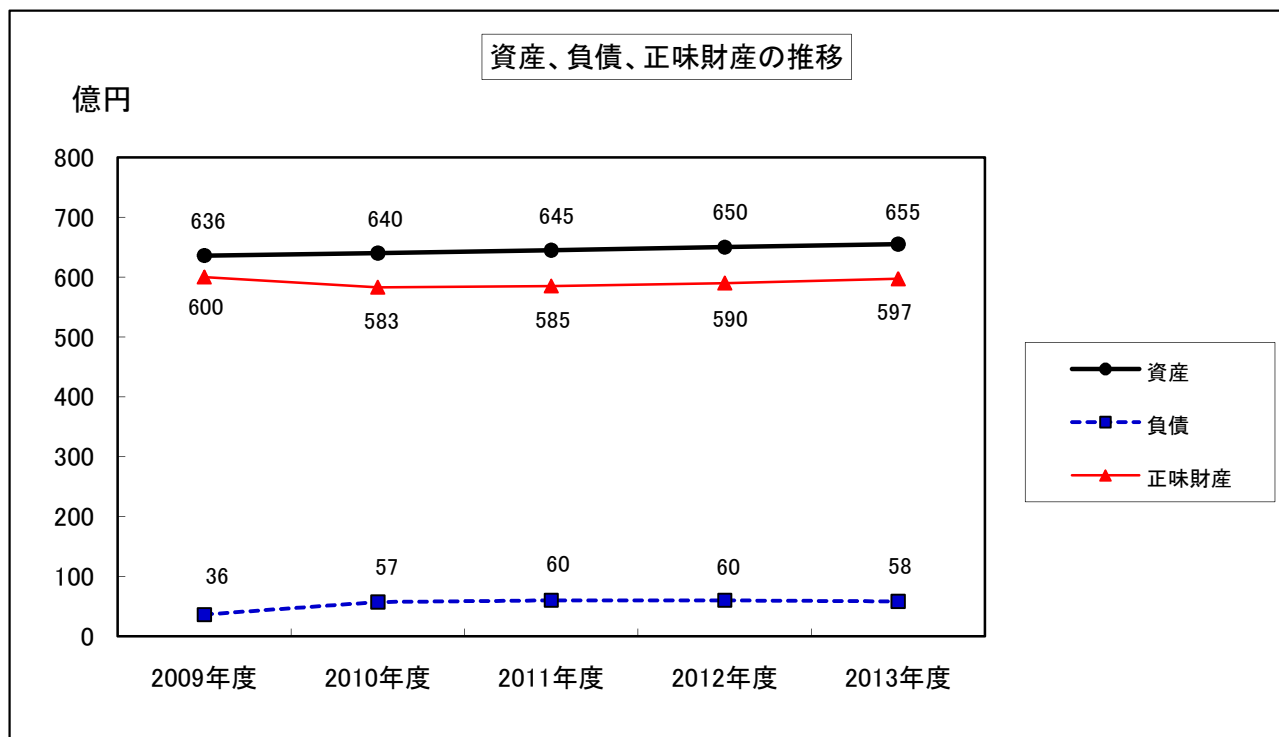
(参考)

正 味 資 産	59,690	59,034	655
---------	--------	--------	-----

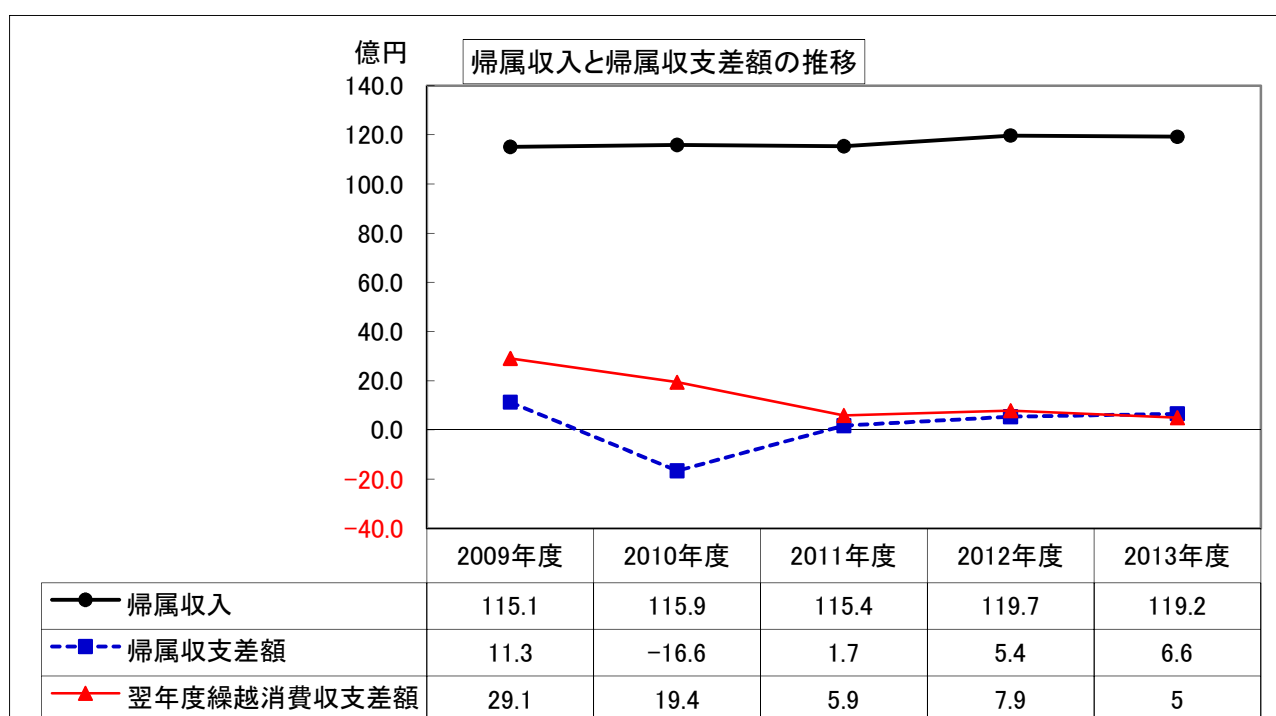
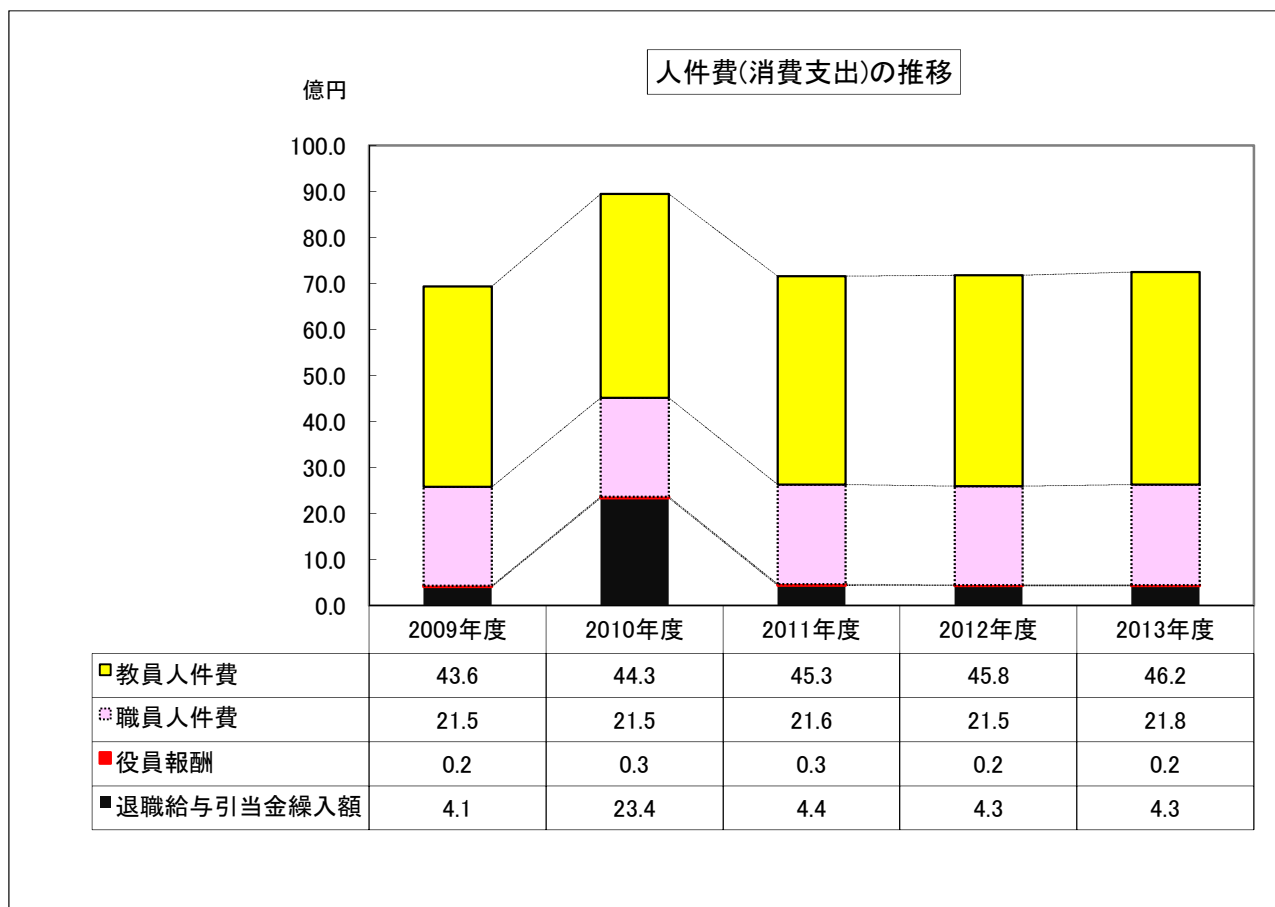
※正味資産＝資産－負債(＝基本金＋消費収支差額)

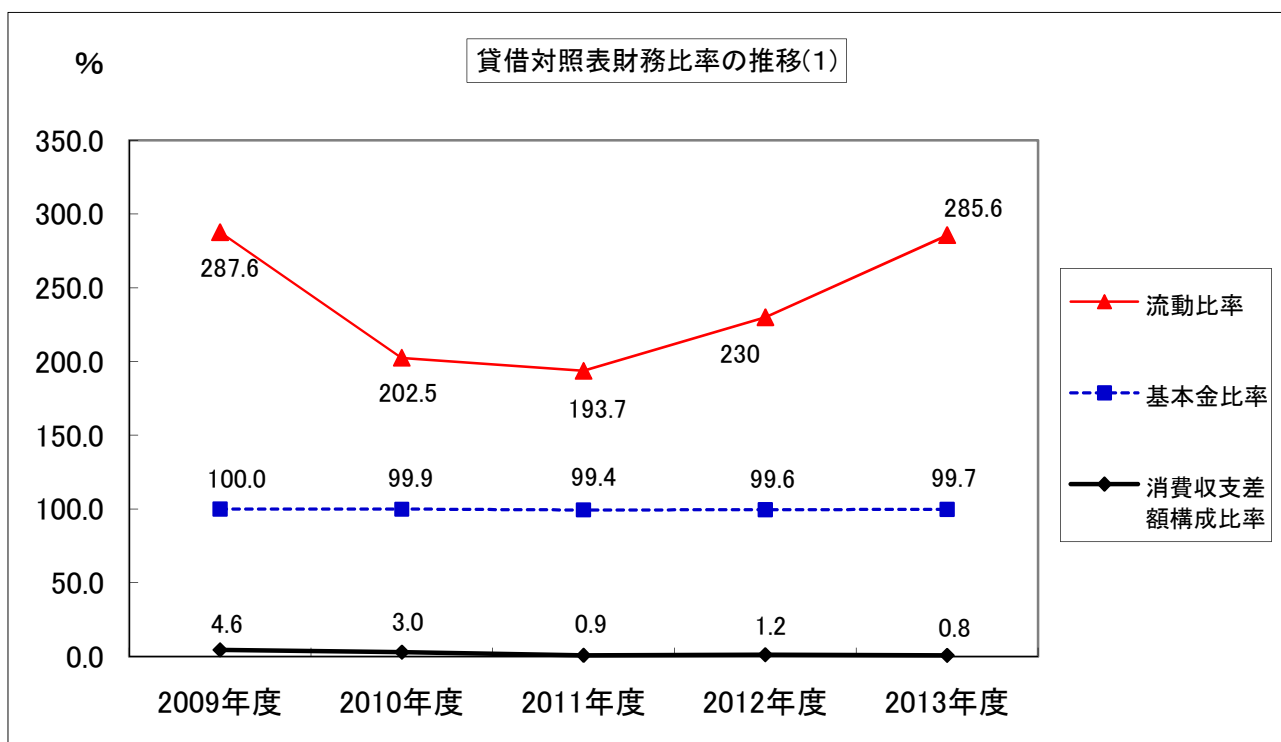
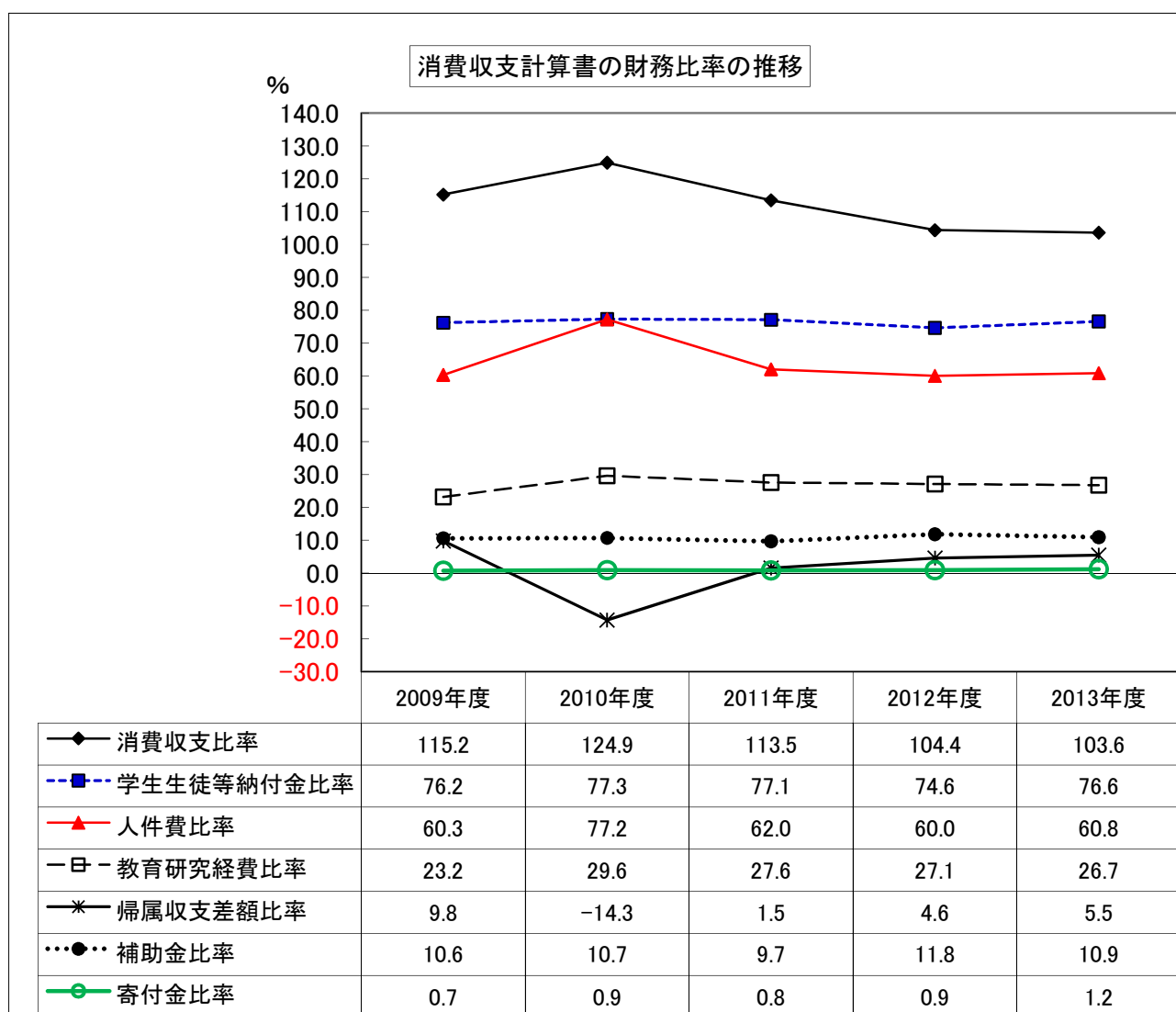
減価償却額の累計額	11,936	11,223	714
基本金未組入額	156	261	△ 105

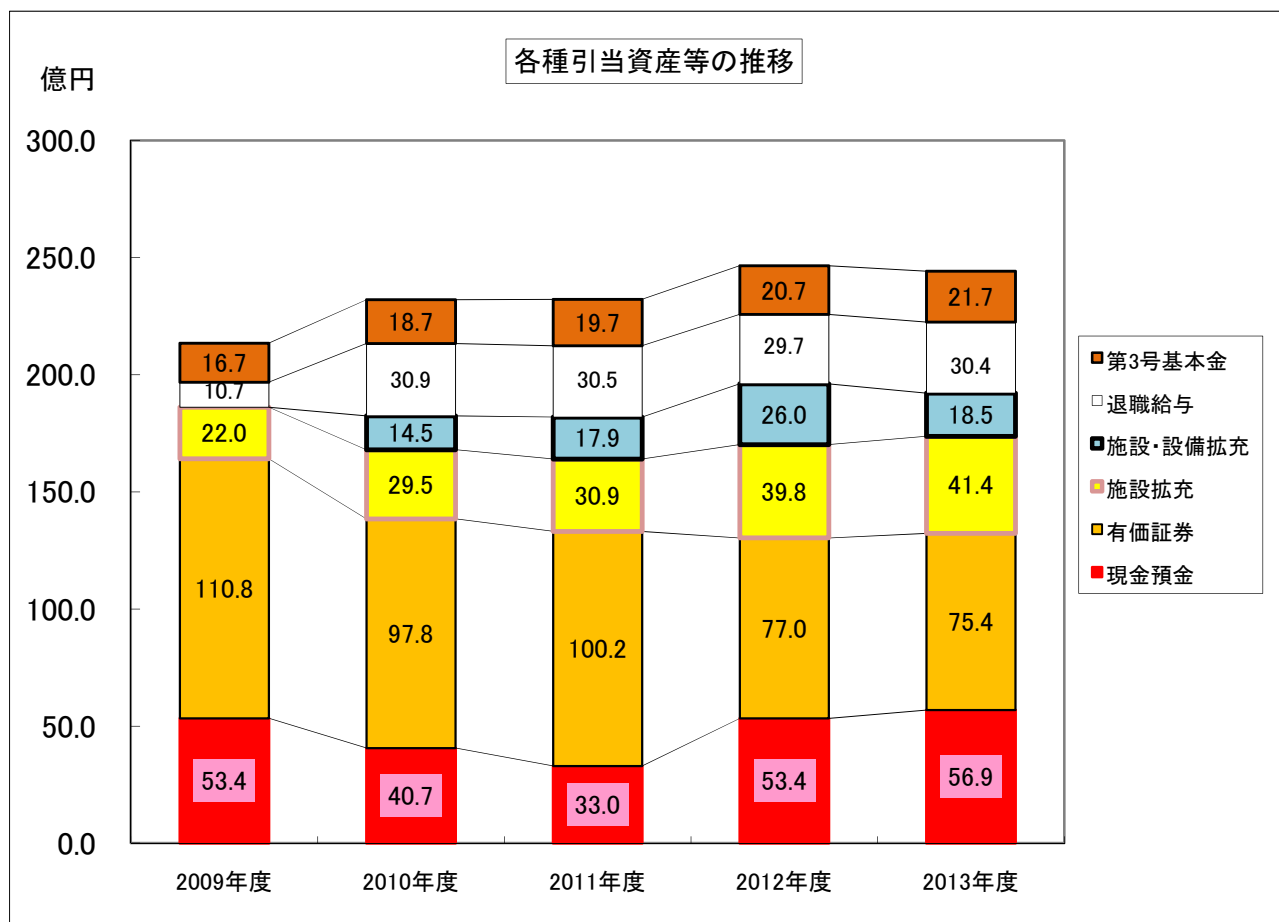
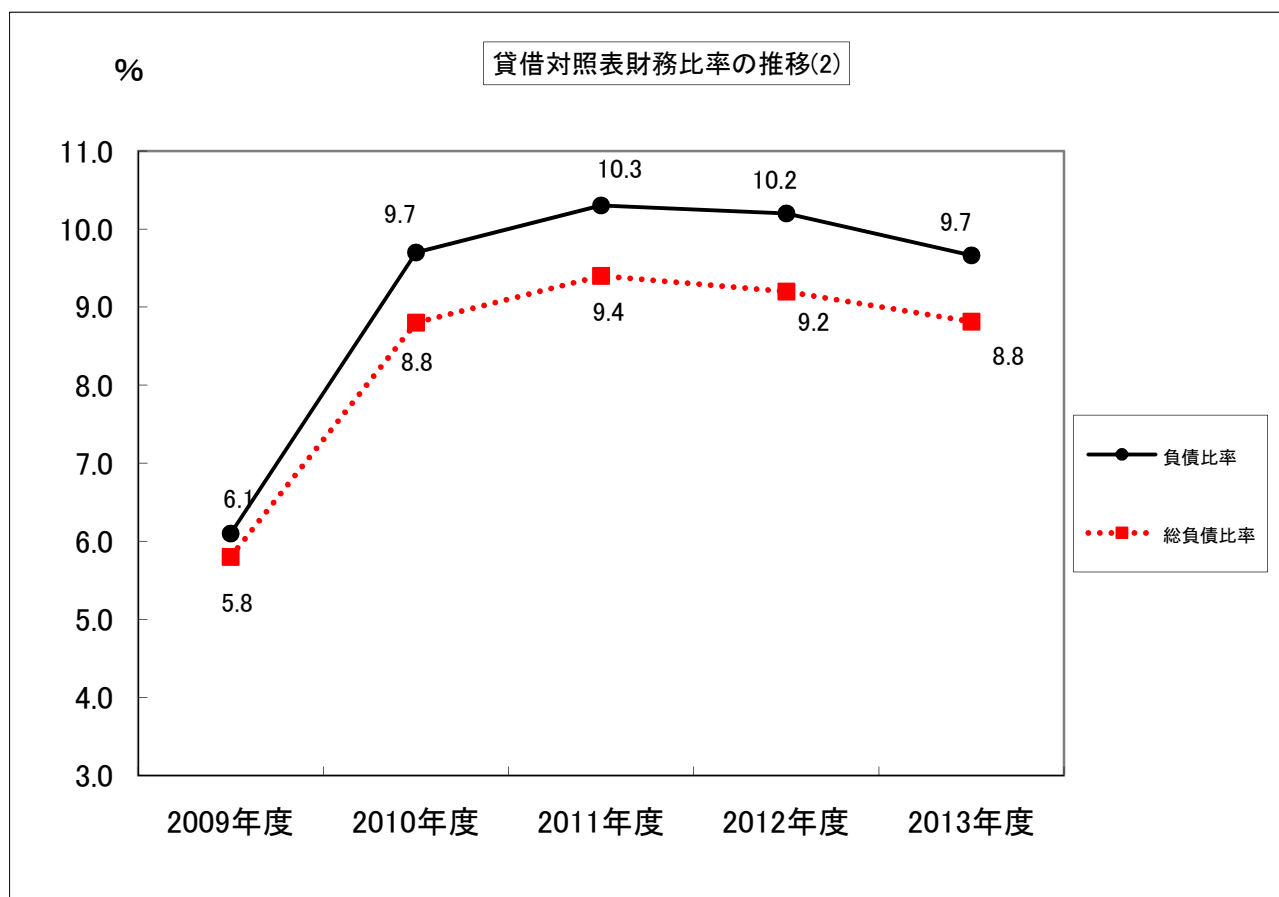
※表中の金額は、いずれも百万円未満を機械的に端数処理しているため、合計等の数値が一致しない場合がある。



4. 財務比率などの推移







5. 財務比率比較表

(単位: %)

区 分				西南学院		全国平均	同系統	評価
				2013年度	2012年度	2012年度	2012年度	
貸借対照表関係比率	自己資金は充実されているか	自己資金構成比率	自己資金 総資金	91.2	90.8	87.2	88.0	△
		消費収支差額構成比率	消費収支差額 総資金	0.8	1.2	△ 11.2	△ 11.6	△
		基本金比率	基本金 基本金要組入額	99.7	99.6	97.1	97.8	△
	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	固定資産 自己資金	96.7	98.9	99.5	97.8	▼
		固定長期適合率	固定資産 自己資金+固定負債	92.0	94.0	91.9	91.0	▼
	資産構成はどうなっているか	固定資産構成比率	固定資産 総資産	88.2	89.8	86.7	86.1	▼
		有形固定資産構成比率	有形固定資産 総資産	61.0	60.7	61.0	61.3	▼
		その他の固定資産構成比率	その他の固定資産 総資産	27.2	29.0	25.7	24.8	△
		流動資産構成比率	流動資産 総資産	11.8	10.2	13.3	13.9	△
		減価償却比率	減価償却累計額(図書除く) 減価償却資産取得額(同)	37.4	36.1	47.1	48.2	～
	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保率	運用資産－総負債 総資産	30.2	30.0	26.2	26.8	△
		運用余裕比率	運用資産－外部負債 消費支出	2.2	2.1	1.9	1.9	△
		流動比率	流動資産 流動負債	285.6	230.0	237.1	256.8	△
		前受金保有率	現金預金 前受金	336.6	283.1	324.0	330.1	△
		退職給与引当預金率	退職給与引当資産 退職給与引当金	100.0	100.0	66.5	66.3	△
	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	固定負債 総資金	4.7	4.8	7.2	6.5	▼
		流動負債構成比率	流動負債 総資金	4.1	4.4	5.6	5.4	▼
		総負債比率	総負債 総資産	8.8	9.2	12.8	12.0	▼
		負債比率	総負債 自己資金	9.7	10.2	14.7	13.6	▼
消費収支計算書関係比率	経営状況はどうか	帰属収支差額比率	帰属収入－消費支出 帰属収入	5.5	4.6	4.8	2.9	△
	収入構成はどうなっているか	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	76.6	74.6	73.4	73.3	～
		寄付金比率	寄付金 帰属収入	1.2	0.9	2.0	1.7	△
		補助金比率	補助金 帰属収入	10.9	11.8	12.6	14.0	△
	支出構成は適切であるか	人件費比率	人件費 帰属収入	60.8	60.0	52.8	56.2	▼
		教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	26.7	27.1	31.2	28.5	△
		管理経費比率	管理経費 帰属収入	6.9	6.8	9.2	10.2	▼
		借入金等利息比率	借入金等利息 帰属収入	0.0	0.0	0.3	0.3	▼
		基本金組入率	基本金組入額 帰属収入	8.8	8.6	11.7	9.6	△
		減価償却費比率	減価償却費 消費支出	10.6	11.3	11.8	10.9	～
	収入と支出のバランスはとれているか	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	79.4	80.4	71.9	76.7	▼
		消費収支比率	消費支出 消費収入	103.6	104.4	107.9	107.5	▼

・(資料)平成25年度版 今日私学財政(日本私立学校振興・共済事業団)

・上表区分中、「全国」は医歯法人を除く、「同系統」は「文他複数学部:156法人」である。

・(評価)△ 高い値が良い ▼ 低い値が良い ～ どちらともいえない

6. 学生生徒等納付金一覧表

2013(平成25)年度 学生生徒等納付金一覧表

年額
単位:円

項 目	大学院	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園
入 学 金 (入学申込金)	135,000 <135,000>	270,000	40,000	100,000	100,000	80,000
施 設 拡 充 費			250,000	200,000	200,000	30,000
計 (入学時)	135,000 <135,000>	270,000	290,000	300,000	300,000	110,000
授 業 料	576,000 <1,100,000>	720,000	360,000 (30,000)	360,000 (30,000)	540,000 (45,000)	294,000 (24,500)
施 設 費	130,000 <130,000>	130,000	90,000 (7,500)	90,000 (7,500)		30,000 (2,500)
教 育 充 実 費					60,000 (5,000)	
保 育 充 実 費						54,000 (4,500)
空 調 費			12,000 (1,000)	12,000 (1,000)		
計(毎年)	706,000 <1,230,000>	850,000	462,000 (38,500)	462,000 (38,500)	600,000 (50,000)	378,000 (31,500)
合 計	841,000 <1,365,000>	1,120,000	752,000	762,000	900,000	488,000

注1. < > 内の数字は法科大学院の納付金を示す。

2. () 内の数字は毎月の納付金を示す。

3. 卒業延期生の授業料は、一単位当たりの授業料(学部:@23,000円、大学院:@40,000円、法科大学院:@30,000円)×不足単位数で算定する。

4. 休学時は、在籍基本料を年間120,000円(半期60,000円)徴収する。(授業料、施設費は徴収しない)

5. 本学からの大学院入学生(法科大学院生も含む)については、入学金を徴収しない。

6. 中・高一貫教育に伴い本学院中学校から高等学校へ入学する者については施設拡充費200,000円を徴収し、入学金は徴収しない。

学校法人西南学院 所在地

学院本部、西南学院大学（大学院・法務研究科を含む）

〒814-8511

福岡市早良区西新六丁目2番92号 電話 092-823-3201

学校法人 <http://www.seinan-gakuin.jp/>

大 学 <http://www.seinan-gu.ac.jp/>

西南学院中学校・高等学校

〒814-8512

福岡市早良区百道浜一丁目1番1号 電話 092-841-1317

<http://www.seinan.ed.jp/hs/>

西南学院小学校

〒814-8513

福岡市早良区百道浜一丁目1番2号 電話 092-841-1600

<http://www.seinan.ed.jp/es/>

舞鶴幼稚園

〒810-0053

福岡市中央区鳥飼一丁目6番1号 電話 092-751-6650

<http://www.seinan-gu.ac.jp/youchien/>

早緑子供の園

〒810-0053

福岡市中央区鳥飼一丁目6番5号 電話 092-761-3408

<http://www.seinan-gu.ac.jp/hoikuen/>